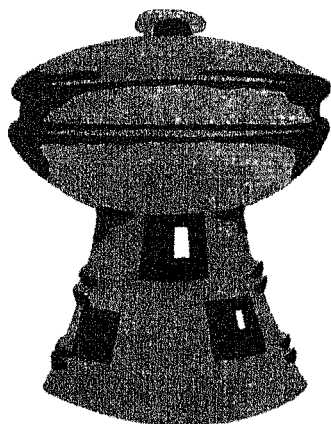


朝鮮民俗資料

第一編

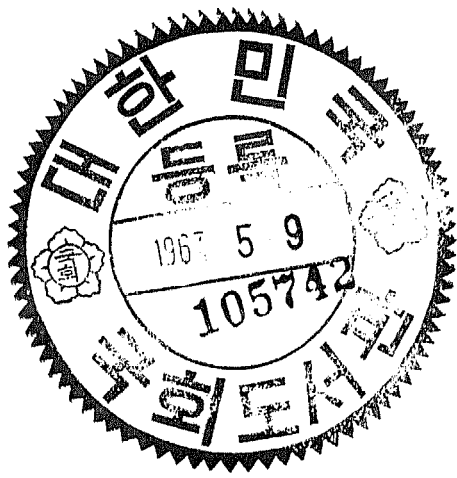
朝鮮の謎



朝鮮民俗資料
第一編

朝鮮の謎

登録番号	1021	
分類番号		
図書番号		



緒言

一、本書ハ管テ本府ニ於テ各道ニ命ジテ採集報告セシメタル朝鮮ノ謎ニ關スル資料ヲ學務局編輯課ニ於テ整理ノ上印刷ニ附シタルモノナリ。

一、本資料中ニハ各題互ニ大同小異ノモノモ尠ナカラズ亦純粹ノ謎ニアラザル一種ノ考物ニ關スルモノ若干ヲ含ム。參考資料トシテ必ズシモ棄ツベキモノニアラザルヲ以テ皆之レヲ採録セリ。

一、本資料ノ謎文ニハ譯語ヲ附シ難解ト見做サルル事項ニ就キテハ註解ヲ施シ且間々挿繪ヲ加ヘタリ。

一、本資料ノ各題ノ譯文答及ビ註解等中ノ謎文ハ振假名ニ依テ其ノ讀方ヲ示シ以テ謎文ニ通ゼザル讀者ノ便宜ヲ計ラントセシモ國語ノ假名ハ之レヲ爲スニ便ナラザルモノアリ却テ讀者ノ誤解ヲ來サンコトヲ慮レ之レヲ省略シタリ

一、本資料ハ朝鮮ニ於ケル從來ノ慣用ニ從ヒ普通の謎及ビ字謎ノ二部ニ分テ之レヲ二編トセリ。

一、普通ノ謎ハ更ニ其答ノ意義ニ依テ分類ヲ施セリ。

一、字謎ハ分類ニ便ナラザルトコロアレバ唯其答ノ漢字ノ部首順ニ依テ配列セリ。

大正八年三月

朝鮮總督府

朝鮮の謎

目次

第一編 普通の謎

一	天	文	日—月—星辰	一
二	歳	時	歲月—四季—曆	八
三	地	理	道路—橋梁—堤防—墓所—電柱—汽車—長丞—地名	一四
四	地	文	方向—山川—空氣—晝夜—風雨—雷電—雲霧—霜露	一九
五	草	木	草木—草芥—果實—野菜—穀類—藥釋類	二六
六	鳥	類	五二
七	獸	類	六四

八	蟲類	一般蟲類—爬蟲類—兩棲類	七〇
九	魚介類	七六
一〇	玉石類	八一
一一	人體	人體各部—人體關係事項	八二
一二	疾病不具	九六
一三	被服敷物	敷物—衣冠—屐屨—容飾具—雜項	九七
一四	飲食物	一〇七
一五	住居	家屋—建具—廡舍—巢穴	一一五
一六	器物	家具—裁縫文房具—舟車橋輿—農工漁具—雜用具	一二七
一七	武器	一八二
一八	遊具	一八五
一九	人事	一八七
二〇	精神現象	資性—睡眠—夢	一九一

二一	身分職業	一九二
二二	經濟	一九四
二三	學事	一九五
二四	樂器	一九六
二五	鬼神	一九七
二六	雜	一九七
	第一編 字 謎	二〇三

朝鮮の謎

第一編 普通の謎

一天文 日一月一星辰

(1) 토외입에서 나와서, 말등을 넘어 닭의 입으로 들어가는 것이 무엇인가?
나。

兎の口から出て、馬の背を通つて、終には雞に食はれてしまふものは何か。

【註】太陽は卯(兎)の方から出て、午(馬)を経て、酉(雞)の方に
入るから、かういふのである。

(2) 토외입에서 나와서, 말등을 지나서 닭의 입으로 들어가는 것이 무엇인가?

目 解

자로쓰면네모지고,그림으로그리면둥근것이무엇이냐。

兎の口から出て、馬の背を通つて、雞の口に入るものがあるが、字に書けば四角になり、畫に畫けば圓いものは何か。

【註】(2)以下(7)まで(1)の註を見よ。

(3) 토끼입에서나와서,말등에서點心먹고,닭의집으로들어가는것이 무엇이냐。

兎の口から出て、馬の背で晝飯を食つて、雞の家へ入るものは何か。

(4) 토끼입에서나와서,배안다리를건너서,말안덕을넘어서,닭의肛門에 떨어지는 것이 무엇이냐。

兎の口から出て、蛇の橋を渡り、馬の坂を越えて、雞の肛門に落ち込むものは何か。

(5) 아침에는 토끼입에서나오고, 저녁에는 닭의 입으로 들어가는 것

日 해 日 해 日 해

이 무엇이야。

朝は兎の口から出て、夕方は雞の口に入るものは何か。

(6) 토끼가 난말을 닭이 먹는 것이 무엇이야。

兎が産んだ卵を、雞が呑むものは何か。

(7) 토끼 입에 서나 와서, 철벽을 지나서, 닭의 입으로 들어가는 것이 무엇
이야。

兎の口から出て、崖を越えて、雞の口へ入つて行くものは何か。

(8) 그리면 둥글고, ㄷ면 모진 것이 무엇이야。

畫に畫けば圓く、字に書けば角になるものは何か。

(9) 實物은 둥근데, 글자로 ㄷ면 네모진 것이 무엇이야。

實物は圓いが、字に書けば四角なものは何か。

(10) 낮에는 나오고, 밤에 숨으며, 그리면 둥글고, ㄷ면 모진 것이 무엇이야。

晝は出て、夜は隠れ畫に畫けば圓く、字に書けば角になるものは

해 日 해 日 해 日 해 日 해 日 해 日 해

何か。

(11) 그리면 등말고, 쓰면 네모지고, 둥이 찰르고, 범이 긴 것이 무엇이나。

畫に畫けば圓く、字に書けば四角になり、龍が短くて、虎の長いものは何か。

【註】冬の日の短い時は、太陽は辰(龍)の時刻に辰の方向から出て、夏の日の長い時は、寅(虎)の時刻に寅の方向から出るからである。

(12) 둥이 찰르고, 범이 긴 것이 무엇이나。

龍は短く、虎の長いものは何か。

(13) 늘, 둥근대, 길어졌다 찰너, 컸다 하는 것이 무엇이나。

常に圓いが、長くもなり、短くもなるものは何か。

(14) 물속에 비단 방석이 무엇이나。

水の中の絹の座蒲團は何か。

(15) 닭은 닭인데, 닭먹는 닭이 무엇이나。

日 何 日 何 日 何 日
물에 빛 찬 제
影水に映つた日の

雞ではあるが食べられない雞は何か。

【註】 雞は場合によつて鴨とも鴨とも發音され、又月も鴨といは

れて、同音であるから、かういふのである。

(16) 天上에 燈을 달아 東南風에 吹지 안는 것이 무엇이나。

天の上に吊した燈の東南風に消えないものは何か。

(17) 다리 업시 하 날 에 올는 것이 무엇이나。

脚なしに天に登つてゐるものは何か。

(18) 한 달 에 두 번 病身 되는 것이 무엇이나。

一月に二度不具になるものは何か。

【註】 月は毎月二度廻るから、かういふのである。

(19) 바다 에 뜬 沙鉢 이 무엇이나。

海に浮んでゐる沙鉢は何か。

【註】 沙鉢は朝鮮の食器で、其の形が圓くて月に似てゐるから、か

月

달

月

달

月

달

月

달

月

달

ういふのである。

(20) 江中에 등근銀이 무엇이나。

江中の圓い銀は何か。

(21) 물속에 잇는金소반이 무엇이나。

水の中の金の膳は何か。

(22) 세살에 나섯, 열다섯살外지자라섯, 三十歲에 죽는 것이 무엇이나。

三歲に生れ十五まで生長して、三十歲に死ぬものは何か。

【註】

月は陰曆の略三日頃から出で、十五日まで大きくなりそれから三十日頃に金くなくなるから、かういふのである。

(23) 등글어드, 半달이라하는 것이 무엇이나。

圓くても半月さいふのは何か。

【註】

月の第十五日は丁度一月の半ばに當るから、かういふのである。

(24) 토외가 밧하고, 닭이 삼키는 것이 무엇이나。

달그림자

月の影

물속의 달

水中の月

달

月

보름달

十五夜の月

해와 달

兎が吐き糞が呑むものは何か。

【註】、() を見よ。

(25) 宇宙間 에 등들이 무엇이나냐。

宇宙の間に燈二つは何か。

(26) 한눈은 낮에 보고, 한눈은 밤에 보는 것이 무엇이나냐。

一つの目では晝に見、又一つの目では夜に見るものは何か。

(27) 一年三百六十五日에, 矢들린 것이 무엇이나냐。

一箇年三百六十五日間花が二つ咲いてゐるものは何か。

(28) 낮에는 숨고, 밤에는 나오는 것이 무엇이나냐。

晝は隠れ、夜になつて現れるものは何か。

(29) 水晶盤에 金を 씌린 것이 무엇이나냐。

水晶の盤に金を蒔いたものは何か。

(30) 풀은 바둑판에, 흰 바둑이 무엇이나냐。

日と月

해와달

日と月

해와달

日と月

해와달

日と月

별

星

하늘에 별

天に星

풀은 하날에 별

青い碁盤に白い碁石は何か。

(31) 들속에 콩씩 된 것이 무엇이냐。

水の中に豆を播いたものは何か。

(32) 은정반에 못대 갈 박은 것이 무엇이냐。

銀の盆に眞鍮の蹄鐵飯を打つたものは何か。

(33) 하늘에는 총이 들어오, 땅에는 칩이 들어 무엇이냐。

天には총が二つ、地には 칩が二つあるものは何か。

【註】天に星が一杯あつて、きら／＼してゐることを吾吾といひ、

又夕暮などの薄暗いことを 칩 칩といつて、何れも二つの同

音が重つてゐるから、かういふのである。

二 歲 時 歲月—四季—曆

(34) 古今에 信을 變치 않는 것이 무엇이냐。

青空に星

물이 빛 친 별

星 水に映つて居る

별

星

별 총 총이 칩 칩 칩

天には星が一杯、地は薄暗がり

四時

古今に互り信を失はないものは何か。

(35) 한번 가면, 다시 오지 않는 것이 무엇이나。

一度去れば再び來ないものは何か。

(36) 가도 붓들지 못 하는 것이 무엇이나。

行くものを引止められぬものは何か。

(37) 오지 말나 하여도 오고, 가지 말나 하여도 가는 것이 무엇이나。

來るなごいつても來、行くなごいつても行くものは何か。

(38) 외는 하나이며 朝鮮 사람이 동시에 먹는 것이 무엇이나。

瓜は一つであるが、朝鮮人一般が同時に食ふものは何か。

【註】 陰曆八月十五日を가외といふが、가외の외と瓜の외と同音

であり、又此の日は鮮人一般に御馳走を食べ、「八月가외を

食べる」などの言葉もあるから、かういふのである。

(39) 가외 하나를 사람마다 쓰는 것이 무엇이나。

四季

歲月

歲月

歲月

歲月

光陰

光陰

八月가외

陰曆八月十五日

八月한가외

鉄一つを人々が皆で共用するものは何か。

【註】 舊曆八月十五をかきさもいふが、鉄(かき)と同音であるから、

かういふのである。猶ほ(38)を見よ。

(40) 二十五日이 한달되는 것이 무엇이나。

二十五日で一月ひとつきなるものは何か。

(41) 기둥이 하나, 가지가 열둘, 남사귀가三百예신다 첫잇는 것이 무엇이나。

柱が一つ、枝が十二本、葉が三百六十五枚あるものは何か。

【註】 一年を柱、十二ヶ月を枝、三百六十五日を葉に譬へたのである。

(42) 한석리에 열두가지,三百六十五날, 두엇치 무엇이나。

一本の根に、十二本の枝三百六十五枚の葉二房の花があるものは何か。

【註】 (41)を見よ。二房の花とは日と月のことである。

陰曆八月十五日

10

두열닷새가 한달

月十五日二つが一

一箇年

一箇年

一箇年

一箇年

(43) 한 나무 열 두 가지三百六十五년 두 개 열 배가 무었이냐。

一本の樹に、十二本の枝、三百六十五枚の葉、實が二つあるものは何か。

(44) 네 마디에 열 두 가지、三百六十五葉이 오、만질 수도 업고、兩端은 차고、

中間은 더운 것이 무었이냐。

四つの節に、十二本の枝と、三百六十五枚の葉があつても、撫でるところは出來ず、兩端は寒く、中間の暑いものは何か。

【註】春夏秋冬を節、十二ヶ月を枝、三百六十五日を葉に譬へ、又春や冬を寒いもの、夏や秋を暑いものと見たのである。

(45) 머리와 꼬리는 차고、가운데는 더운 것이 무었이냐。

頭と尾は冷くて中間の熱いものは何か。

【註】(44)を見よ。

(46) 우아래는 극히 차웁고、中間은甚히 더운 것이 무었이냐。

一箇年

一箇年

冊曆

曆

冊曆

曆

冊曆

上と下は纏めて寒く、中間は甚だ暑いものは何か。

- (47) 머리는 뜨뜻하고, 가슴은 더웁고, 배는 시원하고, 꼬리는 어는 것이 무엇이나.

頭は暖く、胸は熱く、腹は涼しく、尾は凍るものは何か。

【註】春夏秋冬の氣候をかう譬へたのである。

- (48) 머리와 꼬리는 차며, 中心은 뜨거웁고, 處處에 마디잇는 것이 무엇이나.

頭と尾は冷く、中心は熱く、處々に節のあるものは何か。

【註】(44)を見よ。

- (49) 만지면 마디가 엷스되, 보면 마디잇는 것이 무엇이나,

撫でれば節がないけれども、眼で見れば節のあるものは何か。

【註】(44)を見よ。

- (50) 머리와 꼬리는 차고, 가운데는 더우며, 마디가 얇스나, 보이지도 안코,

曆

四時

四季

册曆

曆

册曆

曆

만져지지도 않는 것이 무엇이나。

頭と尾は冷く、中は熱く、節があつても見えす、撫でることも出來ないものは何か。

【註】(44)を見よ。

(51) 한큰 나무가 잇는대, 그마디가 네層이오, 各層마다 가지九十箇가 나고, 아래한層은 썩치되고, 그위한層은 남사귀가 풀으고, 또 그위한層은 남사귀가 늘으고, 第一우의 한層에는, 尖도 업고 남사귀도 업는 것이 무엇이나。

一本の大きな木があるが、四階の節があつて、各節に枝が九十本づゝあり、最下層の節には花が咲き、その上の節には緑の葉があり、又その上の節には黄色な葉があり、又その上の節には花も葉もないものは何か。

(52) 한집에 서나서, 天下가 쓰는 것이 무엇이나。

一年節期

一年の時節

一年四時

一年四季

冊曆

一家から出て天下の人に使はれるものは何か。

三 地 理

道路—橋梁—堤防—墓所—
電柱—汽車—長丞—地名

(53) 世上에 第一 긴 것이 무엇이나。

世間で一番長いものは何か。

【註】「道路」の語も「長い」といふ語も길の音であるから、かういふの

である。

(54) 다리 는 다리 나, 것 지 못 하 는 것이 무엇이나。

脚は脚であるけれども、歩けない脚は何か。

【註】脚も橋も다리といつて同音であるから、かういふのである。

(55) 죽 은 죽 인데, 兵 먹 는 죽 이 무엇이나。

粥ではあるけれども、食へない粥は何か。

【註】「粥」の字と「堤防」の방字の字と同音であるから、かういふの

曆

道路

道路

다리

橋

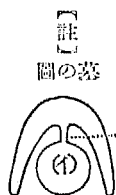
방

堤防

である。

(56) 머리를잡으면 꼬리가 되고, 꼬리를잡으면 머리가 되는 것이 무엇이나.
頭を執れば尾となり、尾を執れば頭となるものは何か。

龍尾



朝鮮に於ける一般の墓の形式は上圖の如きも
のであるが、其の後方に龍尾と稱するところが
あつて、死人の頭部は龍尾の方に置くことにな
つてゐる。頭を執れば尾となる云々とは、頭が
龍尾の方にあるからである。(イ)は死體を臥せ
しめる箇所。

(57) 길뉘헤, 문주업허노흔것이 무엇이나.

道端に掃鉢を伏せてあるのは何か。

【註】墓の形が伏せた掃鉢に似てゐるから、かういふのである。

(58) 等も之に準すべき謎である。

(58) 먼산에 동의를 업허노흔것이 무엇이나.

山所

墓

山所

墓

山所

遠い山に水瓶を伏せてあるのは何か。

(59) 山에 ㅍ악 아지 업흐 것이 무엇이냐。

山に瓢を伏せたものは何か。

(60) 이 무덤의 어머니는 小人 아비의 어머니요, 小人 아비의 어머니는 이 무덤의

어미를 시다 하니, 뒤 무덤이냐。

此の墓の死人の母は私の父の母で、私の父の母は此の墓の中の
死人の母であるといふ。然らば此れは誰の墓であらうか。

(61) 해가 하루에 몇 리나 가느냐。

太陽が一日に幾里行くか。

〔註〕 八十里(内地の約八里)は人の一日の行程で、こゝでは太陽の

行程を人の行程に擬していつたのである。

(62) 것이 안코, 霎時間에千里가는 것이 무엇이냐。

歩きもせんで、瞬く間に千里の處へ達するものは何か。

墓

山所

墓

아비 무덤

父の墓

八十里

八十里

電線

電線

(63) 죽은 나무가 서서, 누는 것이 무엇이나냐。

枯木が立つて、唸つてゐるものは何か。

(64) 쇠말이 무엇이나냐。

鐵の馬は何か。

(65) 입이 크되, 말 못하는 것이 무엇이나냐。

口は大きくても、言語の出来ないものは何か。

【註】

長丞とは土地の境界や其の他要處に立ててある柱状のも

のに人體を刻畫したもので、其の人物の口などは大きく出

來てゐるから、かういふのである。

(66) 눈이 있셔도, 보지 못하는 것이 무엇이나냐。

目があつても見られないものは何か。

(67) 晝夜 눈이 오고 있는 것이 무엇이나냐。

夜も晝も眼を開けてゐるものは何か。

電線

電杆

汽車

汽車

長丞

長丞

長丞

長丞

長丞

長丞

(68) 風雨霜雪과晝夜를不分하고指路하는것이무엇이냐。

風雨霜雪に構はず晝夜を分たず道を指すものは何か。

(69) 술먹고돈아니주는데가어디냐。

酒を飲んでも、金を遣らぬところは何處か。

〔註〕 只の酒即ち空酒(공술)と郡名の公州(공주)とは朝鮮語で同音であるから、かういふのである。

(70) 喪事난고을이어디냐。

人の死んだ郡は何處か。

〔註〕 人が死んだ時に泣く哭聲(곡성)と谷城(곡성)と同音であるから、かういふのである。

(71) 값을못지안코사는나라가무슨나라냐。

價を問はないで買ふ國は何の國か。

〔註〕 露國は朝鮮では俄羅斯(아라사)といつて、「知つて買ふ」(아라사)といふことになるから、かういふのである。

長丞

長丞

公州

公州

谷城

谷城

俄羅斯

露國

四 地

文

方向—山川—空氣—晝夜—
風雨—雷霆—雲霧—霜露—

(72) 북은 북이나, 소리나 지안는 북이 무엇이나。

大鼓ではあるけれども、音の出ない大鼓は何か。

〔註〕大鼓の북と北の북は同音であるから、かういふのである。

(73) 새중에 무슨 새가 크중크냐。

鳥の中でどんな鳥が一番大きいか。

〔註〕「間」の朝鮮語 새 と「鳥」の朝鮮語 새 と同音であるから、かうい

ふのである。

(74) 根本물오든板材두立이 무엇이나。

根源を知らぬ二枚の板は何か。

(75) 늘사는집이 무엇이나。

何時も住んでゐる家は何か。

北

北

하날과 땅의 새

天と地との間

天地

天と地

天地

天地

(76) 天地間에 第一더리가 높고, 창자가 깊흔 것이 무엇이나.

天地間に於て、一番頭が高く、腸が深いものは何か。

(77) 알중에 두스알이 第一크냐。

卵の中でごんな卵が一番大きいか。

【註】「峯」の朝鮮語산봉알の알と「卵」の알と同音であるからかう

いふのである。

(78) 찬물에 데여치, 버치진 것이 무엇이나。

冷水に温められて禿けたものは何か。

(79) 얼다졸다치드, 배불으지 아니한 것이 무엇이나。

幾ら吸つても腹の膨れないものは何か。

(80) 치우면살으고, 더우면진 것이 무엇이나。

寒ければ短く、暑ければ長いものは何か。

【註】 晝の間が冬は短く、夏は長いからである。

山川	山川	峯	山崩	山崩	山崩	山崩	山崩	山崩	山崩
山川	山川	山崩	山崩	山崩	山崩	山崩	山崩	山崩	山崩

(81) 술은 술이라도, 못먹는 술이 무엇이냐.

酒ではあるが、飲まれない酒は何か。

【註】「酒」の 술と「薄暮」の 어 술의 술と殆んど同音であるから、かう

いふのである。

(82) 밤에 불을 켜면, 逃亡할 것이 무엇이냐.

夜燈火をつければ逃げるものは何か。

(83) 밤은 밤인데, 못먹는 밤이 무엇이냐.

粟ではあるけれども、食はれない粟は何か。

【註】「粟」も「夜」も朝鮮語にて粟といつて同音であるから、かうい

ふのである。

(84) 돌벽에 명주늘이는 것이 무엇이냐.

石の壁に絹を垂れたものは何か。

(85) 물고구든 것이 무엇이냐.

해적어술

薄暮

어둔것

暗黒

밤

夜

명주

瀧

물

脆くて堅いものは何か。

(86) 平平하고 險한 것이 무엇이야。

平坦で險しいものは何か。

(87) 天下萬古에, 괴운세인 것이 무엇이야。

古今東西に力の強いものは何か。

(88) 손어도 손어지지 아니하는 것이 무엇이야。

切つても切れないものは何か。

(89) 칼로 버혀도, 칼을 떼면, 兵도로 붓는 것이 무엇이야。

刀で切つても、刀を離せば元の儘になるものは何か。

(90) 밤이 나 낮이 나, 쉬지 안코 가는 것이 무엇이야。

夜も晝も休まないで行くものは何か。

(91) 밤낮업시, 소리를 질르고 가는 것이 무엇이야。

夜晝の別なく聲を立てて行くものは何か。

水

水

水流

水

水流

水

水

水

水

水

水流

시냇물

谷川の水

(92) 路資업시, 밤낮 갈 가는 것이 무엇이냐。

旅費を持たずに夜盡行くものは何か。

(93) 萬里를 가되, 뒤도 돌아보지 않는 것이 무엇이냐。

萬里を行つても後をも顧みないものは何か。

(94) 밖것 헤쳐는 밝고 안에서는 어둔 것이 무엇이냐。

外から見れば明るく, 中から見れば暗いものは何か。

(95) 아침 커덕으로, 밋구멍만 지켜 주고, 어터덕지는 못 하는 것이 무엇이

냐。

朝夕尻を焼いてやつても, 自分は貰つて食ふここの出來ないも

のは何か。

(96) 바도 바다도 아닌데, 구녕만 든 것이 무엇이냐。

河でも海でもないのに, 穴の出來てゐるものは何か。

(97) 形容업는動物이 무엇이냐。

물 水流 물 水流 물 水流 물 水流 물 水流 물 水流 물 水流 물 水流 물 水流 물 水流

形のない動物は何か。

(98) 발이 없으나,天下를通行하는 것이 무엇이나냐。

足が無くても,天下を通行するものは何か。

(99) 손 없으나, 무릎을 드는 것이 무엇이나냐。

手が無くても,能く木を揺り動かすものは何か。

(100) 天下에 第一 긴 것이 무엇이나냐。

世の中で一番長いものは何か。

(101) 비는 비나, 쓸지 못하느비가 무엇이나냐。

筈ではあるけれども、掃くことの出来ない筈は何か。

【註】「筈」と「雨」とは朝鮮語で비であつて、同音であるから、かうい

ふのである。

(102) 소리는 있되, 形容 없는 것이 무엇이나냐。

聲があつても、形のないものは何か。

雷 雨 風 風 風 雨 雨 雨 雨 雷

(103) 머리 풀고 하날로 올라가는 것이 무엇이냐.
髮を散らして天に上つて行くものは何か。

(104) 개중에 누스개가 첫째냐。
犬の中でぎんな犬が一番大きいか。

【註】「霧」[안개]의 개는「犬」[개]의 개と同音であるからかういふのである。

(105) 갓가운 즉 낫타라고 멀면 낫타나지 만는 것이 무엇이냐。
近ければ現はれ遠ければ現はれないものは何か。

(106) 이 중에 누스이가 첫째냐。
鼠の中でぎんな鼠が一番大きいか。

【註】「霜」[서리]의 리と「鼠」[이]의 이と殆んど同音であるからかういふのである。

(107)江山草木이白衣 님은 것이 무엇이냐。
山も川も木も白衣を着てゐるものは何か。

雪	白	霜	서	陽	아	霧	안	雲	구
	雪		리	炎	지		개		름
					랑				
					이				

五 草 木

草木—花卉—果實—
野菜—穀類—薯蓣類

(108) 두 산을一時에그는것이무엇이냐。

二つの山を同時に削ふものは何か。

〔註〕葛は谷を隔てた兩方の山に延び展がることもあるからかういふのである。

(109) 이산커山버더가는것이무엇이냐。

此の山彼の山へ延びて行くものは何か。

〔註〕
(108)を見よ。

(110) 목을버힐썩어는소리가엄고,배를갈을썩어소리나는것이무엇이냐。

首を斬る時は聲が出ないけれども、腹を割く時に聲の出るものは何か。

葛 嶺 葛 嶺 葛 嶺

(111) 소리엄시웃는 것이 무엇이나냐。

聲を出さないうで笑ふものは何か。

【註】花の咲くことを笑ふだともいひ「笑ふ」といふ語と同一

あるからかういふのである。

(112) 서울은 서울이나主人업는 서울이 무엇이나냐。

都ではあるけれども、主人のゐない都は何か。

【註】「蕪」の朝鮮語吳舎の舎と、都の朝鮮語の서울と殆んど同音

であるからかういふのである。

(113) 一年동안에 한질이나 자라되 마 되업는 것이 무엇이나냐。

一年間に人の身長位伸びるけれども、節のないものは何か。

【註】莞草は内地の菘菜(七鳥菘)に類したもので、半島中部以南に

良品を産し、主として蓆等を製するに用ひる。

(114) 마 되업시 자라되, 外치집되는 것이 무엇이나냐。

花 吳

蕪 吳舎

菘 菘
莞草 ワンケル

菘 菘
莞草

節なしに育つて、上部に鵲の巢の出来るものは何か。

【註】花の部分が鵲の巢に似てゐるから、かういふのである。猶

ほ(113)を見よ。

(115) 올빼보아도, 갈싸가 무엇이나.

來る時に見ても、「行く時」といふのは何か。

【註】「藍」の朝鮮語갈대と「行く時」の朝鮮語とは其の發音が畧同

一であるから、かういふのである。

(116) 을타리밧헤散髮하고잇는것이 무엇이나.

籬の下に髮を散らしてゐるものは何か。

(117) 장승에, 배초목먹는장이 무엇이나.

醬油の中で、取つて置いて食はれない醬油は何か。

【註】「芝草」(傾草)의 장と醬油(醬)의 장と同音で、且つ芝草を四角に切

取ること、醬油を汲み取ることと同じく배초(連用形)と

莞草

갈대

藍

蛇草

蛇草

傾草

芝草

いふから、かういふのである。

(118) 一年 동안에 몇 걸식 자라는 것이 무엇이나냐。

一年間に何丈も育つものは何か。

(119) 어렸을 때는 옷을 입고, 커지면 옷을 벗는 것이 무엇이나냐。

若い時は着物を着、大きくなれば着物を脱ぐものは何か。

(120) 王은 바지를 벗었스되, 臣下는 바지 님은 것이 무엇이나냐。

王は바지를脱いでゐるけれども、臣下は바지를着けてゐるものは何か。

【註】 바지는朝鮮人の穿く太い股引のやうなもので、下を折るやうに出來てゐる、太い竹のことを朝鮮語で王대(왕대)といふから、これを王に譬へ、細い竹을 신이대(신대)는臣に通ずといふから、之を臣下に譬へ、又太い竹には鞅に皮が無く、細い竹には鞅に皮があるから、かういふのである。

(121) 子息은 춤을 추고, 아비는 잔뜩 골뎠 것이 무엇이나냐。

나
무

竹

대

竹

대

竹

대

子は舞ひ、父は大いに怒つてゐるものは何か。

【註】木の幹を父、枝を子と見、幹の風に動かないさまを怒つたこ

とに、枝の風に吹かれて動いてゐるのを、舞ふことに譬へたのである。

(122) 눈은 눈이나, 보지 못하니 눈이 무엇이나.

目ではあるけれども、見るここの出来ない目は何か。

【註】「目」の朝鮮語と「木の芽」の朝鮮語나 무세의 새와同音であ

るから、かういふのである。

(123) 四時長天 풀은 옷 남은 것이 무엇이나.

四季とも緑の着物を着てゐるものは何か。

(124) 날마다 춤추는 것이 무엇이나.

毎日舞ふものは何か。

【註】風に動搖することを舞ふといつたのである。

木

나무

木の芽

나무

松の樹

나무

松の樹

(125) 笠を冠つて帶を締めないものは何か。

〔註〕 松の葉を笠に替へたのである。

(126) 어머니 아래 잇고, 子息은 머리 에 올라 가 잇는 것이 무엇 이냐.

母は下に居り, 子は頭に登つてゐるものは何か。

〔註〕 松の樹を母に松毬まつかきを子に替へたのである。

(127) 늙어도 靑靑한 것이 무엇 이냐.

年取つても靑々としてゐるものは何か。

(128) 방울쥬에, 소리 업는 방울이 무엇 이냐.

鈴の中で音の出ない鈴は何か。

〔註〕 「松毬」(송방울)의 방울と「鈴」(방울)의 방울と同音であるから、

かういふのである。

(129) 밤낮머리 풀고 잇는 것이 무엇 이냐.

소나무

松の樹

소나무

松の樹

松과竹

松と竹

송방울

松毬

슈양버들

夜も晝も髪を散らしてゐるものは何か。

(130) 굽으러 쳐도, 버섯 다 하는 것이 무엇이나。

曲つてゐてもピンと延びたさいふものは何か。

【註】「柳」の朝鮮語 버드나무의 버드는、ピンと延びてゐるといふ語

(버섯)의 버섯에 似てゐるから、かういふのである。나무は

樹の義である。

(131) 옷중에, 第一 조흔 것이 무엇이나。

花の中で一番よい花は何か。

【註】棉花は衣服の材料になるから、かういふのである。

(132) 한 해에, 첫 두 번 되는 것이 무엇이나。

一年に花が二度咲くものは何か。

(133) 복숭아 두 번 되고, 첫 두 번 되는 것이 무엇이나。

二度は桃の實になり、二度は花になるものは何か。

垂柳

버드나무

柳

棉花

棉花

棉花

棉花

棉花

棉花

【註】蕾と結實したものとを桃の實に譬へ、花と結實後開いた萼

とを合せて二度の花と見たのである。

(134) 꽃이 피어 열매 열니고 열매가 열되다가 다시 꽃피는 것이 무엇이나.

花が咲いて實となり、實が更に花となるものは何か。

【註】萼を二度目の花と見たのである。

(135) 꽃 필 적에는 아래로 향하고, 열매 열 적에는 위로 향하는 것이 무엇이나.

엇이나.

花の咲く時は下を向いて咲き、實を結ぶ時は上を向いて結ぶも

のは何か。

(136) 아버지는 青春이오, 아들은 老人이 무엇이나냐.

父は青年で、子は老人のものは何か。

【註】棉の實は初めは青く、後になつて白い萼をふくから、かうい

ふのである。

棉花

棉花

棉花

棉花

棉花

棉花

(137) 하날 보고 웃는 것이 무엇이나냐。

天に向つて笑ふものは何か。

(138) 하날 보고 입을 버리는 것이 무엇이나냐。

天に向つて口を開けるものは何か。

(139) 썰썰이 안에 반반이, 반반이 안에 썰썰이, 썰썰이 안에 오독오독이 가

무엇이나냐。

刺の中にスベくしたものの、スベくしたものの中に澁いもの

澁いものの中に堅くて軟かなものは何か。

(140) 가시안에 딱근, 딱근안에 렴렴, 렴렴안에 맛나는 것이 무엇이나냐。

刺の中にスベくしたものの、스베くしたものの中に澁みのあ

るもの、澁みのあるものの中に旨いものがあるのは何か。

(141) 낮에 보아도, 밤나무가 무엇이나냐。

晝見ても、夜の樹といふのは何か。

아람버는것

穉栗

아람버는것

穉栗

밤

穉栗

밤

穉栗

밤나무

栗の樹

〔註〕「栗の樹」の朝鮮語밤나무は分解すると、「夜」[밤]と「樹」[나무]との意味にもなるから、かういふのである。

(142) 낮에 보아도, 밤이 무엇이냐。

晝見ても、夜といふものは何か。

〔註〕「夜」と「栗」も朝鮮語で同じく밤であるから、かういふのである。

(143) 子息 삼아 씨, 아버지에 쓰는 것이 무엇이냐。

子を殺して、父の祭に供へるものは何か。

〔註〕朝鮮では祖先の位牌を栗の材で造り、祭の時には栗の實を供へるから、材を父に、實を子に備へて、かういふのである。

(144) 흰 색깔은 희고, 長成하여서는 푸르고, 늙어서는 붉은 것이 무엇이냐。

子供の時には白く、大きくなつてからは青く、年を取つてからは

백
은
밤

栗

밤
栗

갈

赤くなるものは何か。

(145) 고기일코, 스손을늘이는 것이 무엇이나。

自分の肉を失つて、子孫を繁殖させるものは何か。

(146) 늑을 수륙살치는 것이 무엇이나。

年取るほど肥え太るものは何か。

(147) 배꼽에 털난 것이 무엇이나。

臍に毛の生えたものは何か。

(148) 肛門에 帽子 쓴 것이 무엇이나。

肛門に帽子を冠つてゐるものは何か。

(149) 궁둥이에 송낙 쓴 것이 무엇이나。

尻に송낙を冠つてゐるものは何か。

【註】 송낙は僧侶の冠る帽子である。

(150) 放氣나무에 처, 열매 닳되다 는 것이 무엇이나。

柿

과실

果實

과실

果實

도토리

橡の實

도토리

橡の實

도토리

橡の實

생나무오터

屍の木から實五升をさるものは何か。

【註】「桑」の朝鮮語を放屍の音響に、「桑の實」の 오 락 全「五升」の

오 락 全に對へて、かういふのである。

(151) 머리 셋, 눈 여섯, 발 열 들 잇는 實果가 무엇이냐.

頭が三つ、目が六つ、足が十二本ある果物は何か。

【註】杏の一種に 개살구 といふものがあるが、これを 개(犬)、살(狸)、

구(胸)の三語に分解し、更に此の三種の獸類を合すると、頭が

三つ、目が六つ、足が十二本となるのである。

(152) 이산 켜 산으로 편지 傳하는 것이 무엇이냐.

此の山彼の山へ手紙を配るものは何か。

(153) 하 날에 편지가 지고 가는 것이 무엇이냐.

天に手紙を持つて行くものは何か。

【註】枯葉が風に吹かれて高く飛ぶことをかういふのである。

桑の實

개살구

杏

갈넉

秋の落葉

말은 날사귀

枯葉

(154) 風來하니、葉八分이 무었이나。

風が吹いて來るに、葉が八分なるものは何か。

【註】葉が風に吹かれて動く有様を너흔너흔といつて、四分四分の意味にも取られうるから、四分の二倍即ち八分といふのである。

(155) 鳥去하니、枝二月이 무었이나。

鳥が飛んで行けば、枝が二月になるといふことは何のどこか。

【註】枝の動く有様を한달한달といつて、「一月一月」といふことと同音であつて、一月が二つ重なる意味にもなるから、二月といふのである。

(156) 외기동에、기와집진것이 무었이나。

一本の柱に瓦家を建てたものは何か。

【註】菌の柄を柱に傘を瓦家と見たのである。

(157) 컹잇슬싸에는 풀은 옷을 남고, 늣어서는 풀은 옷 남는 것이 무었이나。

바람이오니、남사귀
가너흔너흔

風が吹いて來て、葉
の動くこと

새가 날나가니、가지
가 한달한달
鳥が飛んで行つて、
枝の動くこと

버섯

菌

외

若い時は青色の着物を着、年を取つては黄色の衣服を着るものは何か。

〔註〕 胡瓜は初は青く、後には黄色になるから、かういふのである。

(158) 쥘어서는 풀은 치마 남고, 늙어서는 배치마 남는 것이 무엇이야。

若い時は青色の裳を着、年を取つてからは麻布の裳を着けるものは何か。

〔註〕

(157) を見よ。

(159) 팽냥이 쓰고, 마마하는 것이 무엇이야。

팽냥이를冠つて天然痘をやるものは何か。

〔註〕

팽냥이는笠の一種である。胡瓜の開花中、其の尖端にある花を笠に譬へ、實になる部分の刺を天然痘にかゝれることに譬へたのである。

(160) 한살부터 팔십까지역신하는 것이 무엇이야。

胡瓜

의

胡瓜

의

胡瓜

의

一歳の時から八十歳まで天然痘をやるものは何か。

【註】 胡瓜は實の結び初めから收穫時まで、全體に刺があるからかういふのである。

(161) 破壁菜가무엇이냐。

破壁菜は何か。

【註】 壁の土を落せば中の骨が現はれるが、此れを朝鮮語で斗といつて、「胡瓜」の朝鮮語と同音であるから、壁を毀した後の野菜といつたのである。

(162) 풀은주머니에,치三百六十箇든것이무엇이냐。

背い籠に種が三百六十箇はひつてゐるものは何か。

【註】 三百六十箇といふのは數の多いことを示したのである。

(163) 킴은싸는자지옷을남고,술어셔는술은옷을남는것이무엇이냐。

若い時は紫色の衣服を着、年取つてからは黄色の衣服を着るも

胡瓜

斗

胡瓜

수박

西瓜

가치

のは何か。

【註】 茄子は初めは紫色で終ひには黄色になるから、かういふのである。

(164) 흰돌우에, 풀난 것이 무엇이야.

白い石の上に草の生えてゐるものは何か。

(165) 돈서 돈으로, 일백예원두가지 사는 것이 무엇이야.

金三錢を以て百六十二種の物を買ふことの出来るものは何か。

【註】 錢(毛)は韓國時代の貨幣の單位である。 열두는「若大根」の

ことで、其の 열は十の意味にもなり、원두두는「味の飽えた豆
腐」のことで、其の 원두는「五十二」といふ意味にもなり、막자
지は「白茄子」のことで、其의 막は「百」の意味にもなるから、合
計して百六十二種としたのである。

(166) 하날로向하야, 손가락질하는 것이 무엇이야.

茄子

豆

大根

열두원돈、원두두한
돈、막가지한돈
若大根が一錢、味の
飽えた豆腐が一錢、
白い茄子が一錢

과

天に向つて指さしてゐるのは何か。

(167) 남사귀에, 尖되 는 것이 무엇이나.

葉に花の咲くものは何か。

(168) 남사귀 尖해, 열매 맺는 것이 무엇이나.

葉の先に實の熟るものは何か。

(169) 풀은 기동우에, 흰방울을 曳진 것이 무엇이나.

青い柱に白い鈴を挿したものは何か。

〔註〕葱の實を鈴に簪へたのである。

(170) 풀은 대 尖해, 杜鵑의 집이 무엇이나.

青い竹の尖に杜鵑の家は何か。

〔註〕葱の實を鳥の巢に簪へたのである。

(171) 풀은 기동우에 外치 집 잇는 것이 무엇이나.

青い柱に鵲の家のあるものは何か。

葱 파 葱 파 葱 파 葱 파 葱

【註】(170)を見よ。

(172) 一年자란 나무에, 外치가 집짓는 것이 무엇이나냐。

一年育つた木に 鵲が巢を作るものは何か。

【註】(170)を見よ。

(173) 풀은대우에, 白鷺가 집진 것이 무엇이나냐。

靑い竹の上に 鷺が巢を作つたものは何か。

【註】(170)を見よ。

(174) 〇의적에는 희고, 長成하여서는 풀으고, ㅎ어서는 붉은 것이 무엇이나냐。

子供の時は白く、大きくなつて後は靑く、年を取つて後は赤くなるものは何か。

(175) 諗어서는 풀은 치마를 낚고, ㅎ어서는 붉은 치마를 낚는 것이 무엇이나냐。

파

蔥

파

蔥

고초

唐辛

고초

若い時には青い裳を着、年を取つてからは赤い裳を着るものは何か。

【註】唐辛は最後、赤くなるから、かういふのである。

(176) 老人의 衣은 赤다 가 무엇 이냐。

老人の赤い裳は何か。

【註】(175)を見よ。

(177) 늙어 고 아 지는 것이 무엇 이냐。

年取つて奇麗になるものは何か。

(178) 풀은 끈, 붉은 주머니 에, 흰 알 든 것이 무엇 이냐。

青い紐、赤い 주머니 に、白い卵の入つてゐるものは何か。

【註】唐辛の花梗を紐に、唐辛을 주머니 に、種子を白い卵に譬へた

のである。주머니 は腰巾着の一種で、錢などを入れるもので

ある。

唐辛

고초

唐辛

고초

唐辛

고초

唐辛

(179) 품속에 葉錢 든 것이 무엇이야。

懷中に葉錢を持つてゐるものは何か。

【註】葉錢は一文錢のことである。こゝに唐辛の種子を葉錢に譬へたのである。

(180) 개고리 풍류체가 무엇이야。

蛙の奏樂用の袍は何か。

【註】蛙が田の中の芹の下で鳴くからかういふのである。

(181) 紅貢緞 두투주머니에 金돈千兩 든 것이 무엇이야。

赤色の緞子の 두투주머니に金子千兩入つてゐるものは何か。

【註】두투주머니は小形の圓巾着で、藥又は香などを容れておくものである。金子千兩とは酸漿の種子をいつたのである。

る。

(182) 사는 것을 판다 하는 것이 무엇이야。

고초

唐辛

미나리

芹

租아리

酸漿

쌀

買ふことを賣るゝいふものは何か。

【註】米を買ふことを朝鮮語では쌀을 산다(米を買ふ)といはな

いで、反對に쌀을 판다(米を賣る)といふから、かういふので

ある。

(183) 全身에 털하나 만난 것이 무엇이나냐。

全身に毛が一本しか生えてゐないものは何か。

(184) 四時精氣를 띄고、風霜을經한後에、百姓을救助하는 풀이 무엇이나냐。

四季の精氣を受けて、風霜を経た後、人民を救助する草は何か。

(185) 全身에 털하나 잇는 것이 무엇이나냐。

全身に毛が一本しかないものは何か。

(186) 天下에鬚髯하나 가진 것이 무엇이나냐。

天下に鬚が一本しかないものは何か。

(187) 옷 남고나갓다가、옷 벗고들어오는 것이 무엇이나냐。

米

보리

麥

보리

麥

벼

벼

벼

벼

벼

着物を着て出て行つて、着物を脱いで入つて来るものは何か。

【註】 粗穀の儘で出て行つて、穀を脱して歸つて来るから、かうい

ふのである。

(188) 矣도 各各 各各 고, 열매 도 各各 열니 는 것이 무엇 이냐。

花も別々に咲き、實も別々になるものは何か。

(189) 五六月에 이 불만 히 쓰고, 손 남 하는 것이 무엇 이냐。

五六月に蒲團を澤山かけて、天然痘をやるものは何か。

【註】 玉蜀黍の皮を蒲團に、粒を天然痘に譬へたのである。

(190) 누덕 이 쓰고, 손 남 하는 것이 무엇 이냐。

襪履を着て天然痘をやるものは何か。

【註】 玉蜀黍の皮を襪履に、粒を天然痘に譬へたのである。

(191) 가죽 속 에 털 난 것이 무엇 이냐。

皮の中に毛の生えたものは何か。

粗

号수수

玉蜀黍

号수수

玉蜀黍

号수수

玉蜀黍

号수수

玉蜀黍

(192) 가죽을 면 쪼 벗기고, 털 뽑는 것이 무엇이나.

皮を先に剃いで、それから毛を塗り取るものは何か。

(193) 배를 갈고, 털 뽑는 것이 무엇이나.

腹を割いて毛を塗り取るものは何か。

(194) 쇠음에 가죽 벗기고, 다음에 털 뽑고, 살은 다 팔나 먹고, 뼈는 버리는 것이 무엇이나.

이 무엇이나.

初め皮を剥き、次に毛を塗り、肉は皆食つてしまつて骨は捨てる

ものは何か。

(195) 가죽 벗기며鬚掻악고, 살은 먹고, 뼈는 버리는 것이 무엇이나.

皮を剥き、鬚を剃り、肉は食つてしまつて、骨は捨てるものは何か。

(196) 닭아래의 회업고 잇는 것이 무엇이나.

垣の下に小供を預うてるものは何か。

註 其の形状からかういつたのである

옥수수

玉蜀黍

옥수수

玉蜀黍

옥수수

玉蜀黍

옥수수

玉蜀黍

옥수수

玉蜀黍

(197) 바자밧헤오히를업고친것이무엇이냐。

籬の下に子供を預うて立つてゐるものは何か。

(198) 나 온것은아니나왔다하고,아이나 온것은나왔다하는것이무엇이

냐。

生えたものは生えないといひ、生えないものは生えたといふものは何か。

(199) 먼키對答하고,뒤에일을말하는것이무엇이냐。

先に答へて後に名を言ふものは何か。

【註】小豆の種類に朝鮮語에팻さいふものがあるが、此の語を

分解して考へると「ハイ小豆」といふことにもなるから、

かういふのである。

(200) 한알곡식이닷근되는것이무엇이냐。

一粒の穀物が五斤さなるものは何か。

옥수수

玉蜀黍

콩

大豆

에팻

小豆の一種

닷근콩

大豆の一種

【註】豆の一種に大豆といふものがあるが、これは大豆(五斤)と
콩(大豆)とに分解することが出来るから、かういふのであ
る。

(201) 三斤菽이 무엇이나。

三斤の菽まめは何か。

【註】「三斤の菽」即ち서른콩腐つた菽と音が殆んど似
てゐるから、かういふのである。

(202) 세모진그릇에,분든것이 무엇이나。

三角の器に白粉の入つてゐるものは何か。

【註】蕎麥の實が三角になつてゐるから、かういふのである。

(203) 붉은줄기에,검은열매가 무엇이나。

赤い莖に黒い實のあるものは何か。

(204) 푸른줄기에,붉은열매가 무엇이나。

서른콩
腐つた菽

모밀

蕎麥

모밀

蕎麥

모밀

青い莖に赤い實のあるものは何か。

(205) 靑草笠에 唐紅나무, 무쇠 열매가 무엇이나.

青い草笠に紅の木、鑄鐵の實のものは何か。

【註】草笠は十三四歳位の既婚者の冠る笠で、草で編まれてある。

之を戴くものは草笠童といつて、既婚者ではあるが、普通の

者よりも軽く見られてゐる。

(206) 대 붉고, 쇠 열매 잇는 것이 무엇이나.

莖は赤く、鐵の實のものは何か。

(207) 집은 집이나, 사람 살지 못하느 집이 무엇이나.

家ではあるけれども、住まれない家は何か。

【註】「家」と「藁」も朝鮮語で 집 といふから、かういふのである。

(208) 갓 쓰고, 띠 안 띠인 것이 무엇이나.

笠を冠つて帯を締めないものは何か。

蕎麥

모밀

蕎麥

모밀

蕎麥

집

藁

집가리

藁を積んだもの

(209) 雷聲에 눈오는 것이 무엇이나냐。

雷가 鳴り雪の降るものは何か。

(210) 켄너덜불야 불야 하는 것이 무엇이나냐。

向うで 火事よ 火事よ かいふものは何か。

【註】「藪(덜)불야의 불」と「火事(火)의 불」と同音であるから、かういふので

ある。

(211) 불은 불인데, 밝지만 코, 썩지만 안은 것이 무엇이나냐。

火ではあるけれども、明るくもなく又熱くもないものは何か。

【註】「草介(草)의 불」と「火(火)의 불」と同音であるから、かういふので

である。

六鳥 類

(212) 눈 불 업시 우는 것이 무엇이나냐。

곡식 가는 것

穀物を 挽くこと

켄너덜 불

向う의 藪

검 불

草介

서

涙を出さないうで鳴くものは何か。

(213) 走走하면 오는 것이 무엇이나。

走れくこ言へば来るものは何か。

【註】 雞を呼ぶ聲 주주と「走走」の字音 주주と同音であるから、かう

いふのである。

(214) 붉은갓을쓰고, 얼룩衣服을 닦은 것이 무엇이나。

赤い帽子を戴き、斑の着物を着たものは何か。

(215) 붉은치마 닦고 바자길로 닦나 드는 것이 무엇이나。

赤い치마を着て、籠の下道を往來するものは何か。

【註】 치마は朝鮮婦人の着ける裳で、雞の羽毛の美しいのを之に

替へたのである。

(216) 알은체가 나 아갓코 달은 것에 게해우는 것이 무엇이나。

卵は自分で産んで置いて、他の物に孵させるものは何か。

鳥

詩

雞

詩

雞

수 닭

牡雞

집 오리

家鴨

(217) 終日거리도五里三十分거리도五里,서도五里,안켜도五里가무엇
이냐。

終日歩いてても五里三十分歩いてても五里、立つても五里、坐つても
五里のものは何か。

【註】「오리」鴨と五里の字音오리とが同音であるから、かういふの
である。

(218) 나는고리가무엇이냐。

飛ぶ環は何か。

【註】「環」고리(と)鶯「회고리」의고리と同音であるから、かういふの
である。

(219) 아버는사람인데,子息은증생이무엇이냐。

父は人であるが、子は獸であるのは何か。

【註】婚姻に用ひる雁を持つて行く者を기력 아버지 卽ち雁の父」と

오리

鴨

회고리

鶯

증생의 기력

婚姻に用ひる雁

いふから、かういふのである。又朝鮮語では、鳥類を 날 짐생(飛ぶ獸)、獸蟲類を 꿀 짐생(窟ふ獸)ともいふから、こゝでは雁を 짐생(獸)といつたのである。

(220) 하늘을 쓰고, 도리질하는 것이 무엇이나.

天を頭に冠つて、頭を左右に振るものは何か。

(221) 해의 동생이 무엇이나.

日の弟は何か。

〔註〕「白鷺」を 해오라비ともいふが、これは「日の弟」といふことにな
るから、かういふのである。

(222) 죽어도 생이라 하는 것이 무엇이나.

死んでも生きてゐるさういふものは何か。

〔註〕死んだ雉を生雉といふから、かういふのである。

(223) 나는 개미가 무엇이나.

叫 鷹 白鷺 生雉 死んだ雉 솔개미

飛ぶ蟻は何か。

【註】 燕(을개미)の개미と蟻(개미)の개미と同音であるから、かういふのである。

(224) 代代로 나무에 집을 짓고 살고, 그목 소리는 上湯에沐浴하고, 祈禱하는 소리를 傳하는 것이 무엇이나。

代々木に巢を作つて、其の聲は上湯に沐浴して、祈禱の聲を傳へるものは何か。

【註】 上湯とは拜佛の折に使ふ淨め湯で、上中下湯の中の上湯をいふのである。又祈禱の朝鮮語비오と鶯の泣聲비오と同音であるから、かういふのである。

(225) 飛비는 기고, 개는 나는 것이 무엇이나。

燕は旬ひ、犬は飛ぶものは何か。

【註】 「飛」(독집이)の집이と「燕」(제비)の제비と音が似て居り、又「鶯」

鶯

을개

鶯

독집이와을개

飛と鶯

(술개)の개と「犬」(개)の개と音が似てゐるから、かういふので

ある。

(226) 죽어도 죽지 아니 하얏다 하는 것이 무엇 이냐。

死んでも死ななかつたさいふのは何か。

【註】 거위 は「鶯鳥」といふことにもなり、「殆んど」といふ意味に

もなるから、かういふのである。

(227) 出入 할 곳이 없는 한 집 에 黃白 兩氏 가 사는 것이 무엇 이냐。

出入すべき處もない一間かんの家に、黃氏白氏が同居するものは何か。

【註】 雞卵の黃身自身を黃氏白氏に譬へたのである。間とは朝

鮮の建物の面積を算へる單位である。

(228) 別有 天地 非人間 에 黃白 二姓 이 同居 하는 것이 무엇 이냐。

別天地に黃姓白姓の者二人が同居するものは何か。

거위 죽은 것

鶯鳥の死んだもの

雞卵

雞卵

雞卵

雞卵

【註】(227) を見よ。

(229) 왼몸이 뼈속에 잇는 것이 무엇이나냐。

全身が骨の中にあるものは何か。

【註】雞卵の殻を骨と見たのである。

(230)(231) 等も類似の謎である。

(230) 뼈안에 살이 무엇이나냐。

骨の中に肉のあるものは何か。

(231) 뼈속에 털잇는 것이 무엇이나냐。

骨の中に毛のあるものは何か。

(232) 한장군에 물두가지가 무엇이나냐。

一つの瓶に二種の水が入つてゐるものは何か。

(233) 한통에 두가지 물을 든 것이 무엇이나냐。

一つの桶に二種の水が入つてゐるものは何か。

(234) 한통에 두가지 장 담근 것이 무엇이나냐。

雞卵

알

卵

발장아는알

孵化中の卵

닭의알

雞卵

닭의알

雞卵

알

一つの瓮に二種の醬油が醸造してあるものは何か。

(235) 구녕업은 甕에, 불 두層이 무엇이나。

穴のない壘に二種の水が入つてゐるものは何か。

(236) 아가리업은 甕에, 불 두가지 든 것이 무엇이나。

口のない瓶に二種の水が入つてゐるものは何か。

(237) 입업은 甕에, 불 하나 가 득 든 것이 무엇이나。

口のない瓶に水が一杯入つてゐるものは何か。

(238) 한독에 두가지 飯 饌 든 것이 무엇이나。

一つの瓮に二種のおか, すが入つてゐるものは何か。

(239) 黄金을 貯置하고, 白玉으로 丹粧하야, 舍情未吐하는 것이 무엇이나。

黄金を貯へ、白玉で化粧をし、情を内に含んで、それを言葉に現はさないものは何か。

卵

닭의 알

雞卵

닭의 알

雞卵

닭의 알

雞卵

닭의 알

雞卵

닭의 알

雞卵

(240) 돌속에白玉이 있고,白玉속에黄金잇는 것이 무엇이나.

石の中に白玉,白玉の中に黄金の入つてゐるものは何か。

(241) 은항아리,뚝항아리,틀업는항아리가 무엇이나.

銀の缸と眞鍮の缸とで、隙間なくなつてゐる缸は何か。

【註】銀の缸は自身に、眞鍮の缸は黄身に譬へたのである。

(242) 털잇는 것이 맨몸동아리만 잇는 것을 낫코, 맨몸동아리만 잇는 것이

털이 잇는 것을 낫는 것이 무엇이나.

羽毛のあるものが裸體のものを産み、裸體のものが羽毛のある

ものを産むものは何か。

(243) 알은 알이라 도, 달된 알이 무엇이나.

卵ではあるけれども、未だ出來上らない卵は何か。

【註】거위(鷺鳥)는「殆んど」の意味にもなる語で、「거위알」は「鷺鳥

の卵」にもなり、又「殆んど出來かけてゐる卵」にもなるか

닭의 알

雞卵

닭의 알

雞卵

새의 알

鳥と卵

거위 알

鷺鳥の卵

ら、かういふのである。

(244) 을라리밋헤, 조쌀썩려는 것이 무엇이나.

籬の下に粟粒を播いたものは何か。

【註】 鳥糞が粟粒に似てゐるから、かういふのである。

(245) 산을밋헤, 쌀썩려는 것이 무엇이나.

生垣の下に米を播いてあるものは何か。

【註】 鳥糞が米粒に似てゐるから、かういふのである。

(246) 똥은똥인데, 조곰덜된똥이 무엇이나.

糞ではあるけれども、未だ出来上らない糞は何か。

【註】 거위(鶩鳥)는「殆んど」の意味にもなる語で、「거위똥」は「鶩鳥の

糞」にもなり、「殆んど出来かけてゐる糞」の意味にもなるか

ら、かういふのである。

(247) 똥에치가무엇이나.

새똥

鳥糞

새똥

鳥糞

거위똥

鶩鳥の糞

말똥에가치

罽にちが何か。

【註】 말투(枕)の語尾투와 마치(鶴)の語尾치를取つて、かういふの

である。

(248) 개가개를물고개로가다가, 개한테놀녀, 개속으로들어가는것이

무엇이냐。

개가개를咬へて개に行く途中に、개に驚かされて개の中に入る

ものは何か。

【註】 술개(燕), 조개(蛤), 강개(江邊), 번개(電光), 안개(霧)の語尾にある개

を取つて、かういふのである。

(249) 귀가귀를물고, 귀로가자귀로가자, 하느것이무엇이냐。

귀가귀を咬へて, 귀に行かう, 귀に行かうといふものは何か。

【註】 가마귀(鳥), 섹다귀(骨), 뽕귀(烟の隅)の귀を取つて、かういふの

である。又가자は鳥の群で「行かう」といふ意味をも表すので

枕に鶴

술개가조개를물고강
개로가다가, 번개한
데놀녀, 안개속으
로들어가는것

鶯が蛤を咬へて江
邊へ行く途中、電光
に驚かされて、霧の
中に入つて行くこと

가마귀가섹다귀를물
고, 뽕귀로가자, 뽕귀
로가자하느것

鳥が骨を咬へて、烟
の隅に行かう、烟の隅
に行かうといふこと

ある。

(250) 귀가 귀를 물고, 귀에 가 먹는 것이 무엇이나。

귀가 귀를 물고, 귀에 가 먹는 것이 무엇이나。

【註】(249)を見よ。

(251) 알이 알을 물고, 알에 가 먹는 것이 무엇이나。

알이 알을 물고, 알에 가 먹는 것이 무엇이나。

【註】 병알이(籩), 쌀알(米粒), 마당알(庭の下)의 알を取つて,かういふのである。

(252) 알이 알을 물고, 알로 들어가 는 것이 무엇이나。

알이 알을 물고, 알로 들어가 는 것이 무엇이나。

【註】 병알이(籩), 조알(粟粒)마루알(大廳の下)의 語尾にある 알を取つて,かういふのである。大廳とは朝鮮家屋にある板の間のことである。

가마귀가 섹다귀를 물고, 밧귀에 가 먹는 것
鳥가 骨을 물고, 巢
의 隅へ 行つて 食ふこ
と

병알이가 쌀알을 물고, 마당알에 가 먹는
것
籩가 米粒을 물고, 庭
의 下へ 行つて 食ふこ
と

병알이가 조알을 물고, 마루알로 들어가
는 것
籩가 粟粒을 물고, 椽
의 下へ 入つて 行くこ
と

七 獸 類

(253) 客이 오면 먼저 나가, 人事하는 것이 무엇이나냐.

客が來れば、先に出て挨拶するのは何か。

(254) 한 쪽에서 상모를 내려 들으고, 한 쪽에서 는 땅뭍이 치는 것이 무엇이나냐.

一方では總を振り、一方では銅鑼を叩くものは何か。

【註】犬の尾を振ることを總を振ることに、ワン／＼と吠えるこ

とを銅鑼を叩くことに譬へたのである。

(255) 바자 밧해 卒그리고 잇는 것이 무엇이나냐.

籬の下に蹲つてゐるものは何か。

(256) 담 밧해 실꾸리를 던진 것이 무엇이나냐.

垣の下に紡錘を投じたものは何か。

犬 客

犬 客

客 籠

犬 糞

客 籠

犬 糞

【註】形が似てゐるからかういふのである。

(257) 往往하면, 서는 것이 무엇이나。

行け行けさいへば、立つものは何か。

【註】朝鮮語で馬を止める折に、處によつて왕왕と言ふが、それが

「往往」の字音왕왕と同音であるからかういふのである。

(258) 길에 乾柿잇는 것이 무엇이나。

道に乾柿があるものは何か。

【註】形が似てゐるから、かういふのである。

(259) 열매 떨어진 후에, 矢키는 것이 무엇이나。

實が落ちてから、花の咲くものは何か。

【註】馬糞を實に譬へ、肛門の赤いのを花に譬へたのである。

(260) 열매는 사라치도, 당글은 죽은 것이 무엇이나。

實は生きてゐても、蔓の死んだものは何か。

말

馬

말똥

馬糞

말똥은 뒤에 똥구
녕

糞をした後の馬の肛
門

마소의굽비

牛馬の手綱

【註】牛馬を實に、手綱を蔓に譬へたのである。

(261) 들은 땅 보고, 들은 부채질하고, 하나는 책속질하는 것이 무엇이나。

二つは見張番をし、二つは扇で煽いで居り、一つは鞭打つてゐるものは何か。

【註】牛の耳、目、尾をそれ／＼かう譬へていふのである。

(262) 냇은 기동되고, 들은 땅 보고, 들은 부채질하고, 들은 주먹으로 하날을

가르치고, 하나는 파리 따는 것이 무엇이나。

四つは柱になり、二つは見張番をして居り、又二つは煽いで居り、又二つは拳で天を指し、一つは蠅を逐つて居るものは何か。

【註】牛の肢、目、耳、角、尾をそれ／＼かういふのである。

(263) 네놈은 우뚝하니 첫고, 한놈은 밥 먹고, 한놈은 마당 쓰는 것이 무엇이나。

四人の者はほんやりさして居り、一人の者は飯を食べ、一人の者

소

牛

소

牛

소

は、庭を掃くものは何か。

(264) 【註】牛の四足を四人に、口を一人に、尾を一人に譬へたのである。
기둥이 넷이오, 주춧돌이 여덟인 것이 무엇이나.

柱が四本で礎が八つあるものは何か。

(265) 길 곁에 접시를 얹혀 두는 것이 무엇이나.
道端に皿を伏せて置くものは何か。

【註】形が似てゐるから、かういふのである。

(266) 길에 천병 부쳐 가는 것이 무엇이나.
道に煎餅を拵へながら行くものは何か。

【註】朝鮮の煎餅は圓い平たいもので、形が似てゐるから、かういふのである。

(267) 죽은 나무에, 산 열매 들이 는 것이 무엇이나.
枯れた木に生きた實が二つあるものは何か。

【註】鋤を枯木に、人と牛とを二つの實に譬へたのである。

牛

소외 밭

牛の足

쇠동

牛糞

쇠동

牛糞

소가 지고田地 가는 것
牛を使つて田を耕す
こと

(265) 죽은 냉쿨에, 산 열매가 무엇이나。

枯れた蔓に生きた實は何か。

【註】 綱を枯れた蔓に、牛を生きた實に譬へたのである。

(269) 소갓고, 쓸업는 것이 무엇이나。

牛に似て、角のないものは何か。

(270) 머리에 볼네들이 고닷는 것이 무엇이나。

頭に新線り機械を戴いて走るものは何か。

(271) 눈뜨고, 잠자는 것이 무엇이나。

眼を開けてゐて、睡るものは何か。

【註】 俗説にかういふのである。

(272) 肛門이 셋잇는 것이 무엇이나。

肛門が三つあるものは何か。

【註】 俗説にかういふのである。

소편지

牛を繋いでゐるもの

송아지

犢
고우시

송사슴

雄鹿

토끼

兎

토끼

兎

(273) 두렵고, 가엾고, 더러운 것이 무엇이나.

恐しく、又氣の毒で穢いものは何か。

【註】 虎は恐しいものであるが、死んでしまへば氣の毒であり、又

糞をして穢いからかういふのである。

(274) 귀는 커비가 무엇이나.

脩ふ燕は何か。

【註】 「聽」[독잡이]의 잡이と、「燕」[제비]의 제비と殆んど同音であるか

らかういふのである。

(275) 새 틈에 들어가면 새요, 쥐 틈에 들어가면 쥐 되는 것이 무엇이나.

鳥の中に入れば鳥となり、鼠の中に入れば鼠となるものは何か。

(276) 낮에는 쥐 되고, 밤에는 새 되는 것이 무엇이나.

晝は鼠となり、夜は鳥となるものは何か。

(277) 바다 속에 있는 哺乳動物이 무엇이나.

호랑이가 등외고족은

것
虎の糞をして死んだ
もの

독잡이

聽

박새

蝙蝠

박쥐

蝙蝠

고래

海中にゐる哺乳動物は何か。

八 蟲 類 一般蟲類—爬蟲類—兩棲類

(278) 을라리밋헤,牟와리갓흔것이무엇이냐。
籠の下に牟와리의やうなものは何か。

【註】 蛇の蟠つてゐるのを牟와りに譬へたのである。牟와리는朝

鮮の婦女子が頭に瓔などを載せる時に、瓔の敷臺とするもので、輪形になつてゐる。

(279) 알을나아낫코,보아외는것이무엇이냐。
卵を産んで置いて、見詰めて孵させるものは何か。

【註】 俗説にかういふのである。

(280) 커도자라,척어도자라라하는것이무엇이냐。
大きくても細かい,小さくても細かいといふものは何か。

【註】 커도자라,척어도자라라하는것이무엇이냐。

鯨

叫
吻

蛇

자
라

繫

자
라

繫

【註】「繫」の朝鮮語は자락といつて、細かいといふことの朝鮮語

と同音であるから、かういふのである。

(281) 바다속에잇고,네발가진것이무엇이냐。

海中に住んでゐて、四足を持つてゐるものは何か。

(282) 뒤등수에눈박힌것이무엇이냐。

後頭に目の付いてゐるものは何か。

(283) 子息三千을나아치,千은케가먹고,千은배암을주고,千은삿기치는

것이무엇이냐。

子を三千産んで、千は自分が食ひ、千は蛇にやり、千は殖やすもの

は何か。

(284) 뛰는고리가무엇이냐。

跳ねる環は何か。

【註】「蛙」(개고리)の고리と、「環」(고리)の고리と同音であるから、か

거북

龜

개고리

蛙

개고리

蛙

개고리

蛙

ういふのである。

(285) 먼 곳 업든 불이 무엇이나。

煙のない火は何か。

(286) 을기는凄涼하게우나,허구리로우는것이무엇이나。

妻く鳴くけれども、脇腹で鳴くものは何か。

(287) 을넘어,안반지고오는것이무엇이나。

餅搗き臺を預うて垣を越えて來るものは何か。

【註】餅搗き臺(반世)は餅を搗く時に臼の代りにつかふ厚板でこ

では蜻蛉の羽を人が餅搗き臺を負ふた様などに聯想し

て、かういふのである。

(288) 죽었다 다시 사는 것이 무엇이나。

死んで生き返るものは何か。

(289) 空중에 그를 찾아먹을 것을求하는 것이 무엇이나。

반
디
불

螢
の
光

매
암
이

蚬

잠
자
리

蜻
蛉

죽
어

蠶

거
의

空中に網を張つて置いて、食物を求めらるものは何か。

(290) 肛門으로 버리며는 것이 무엇이나.

肛門によつて生命を繋いでゐるものは何か。

【註】 蜘蛛は尻から糸を出し網を張つて蟲を捕つて食ふから、か

ういふのである。

(291) 쥘쥘생이 날쥘생을 삼으라고, 八門金鎖陣을 치는 것이 무엇이나.

匍ふものが飛ぶものを捕らうとして、八門金鎖の陣を張つてゐるものは何か。

【註】 쥘쥘생は「匍匐動物」、날쥘생は「飛翔動物」の義である。八門金

鎖の陣は古の陣形で、蜘蛛の八方に網を張つたさまを之に

譬へたのである。

(292) 이가와 손가가 차흠을 하야외, 이가가 지는 것이 무엇이나.

李家と孫家とが喧嘩して、李家が負けるのは何か。

蜘蛛

거미

蜘蛛

거미

蜘蛛

이 죽이 는 것

虱を殺すこと

【註】朝鮮語で虱は이で、手は손である。李は普通イと讀み孫は손と讀む。何れも朝鮮人の姓であつて、虱及び手の訓と同じであるからかういふのである。

(293) 알에요리달닌 것이 무엇이나.

卵に尾の着いてゐるものは何か。

【註】其の形から、かういふのである。

(294) 알은 알이나, 알이라 하지 아니 하는 것이 무엇이나.

卵ではあるけれども、卵さいはないものは何か。

【註】「虱の卵」は이 알さいはないで、特に서캐といふから、かういふのである。

(295) 먹어도, 등업는 것이 무엇이나.

食つても糞のないものは何か。

【註】俗説に蟻には肛門が無いといつてゐる。朝鮮語の慣用例に

서캐

虱の卵

서캐

虱の卵

진디

蟻

ある人が屢々便所に行くのを冷笑した場合に、其の冷笑せられた人が「너는 진땀사기냐」(お前は蠟の子か)などいひ返すことがある。

(296) 口があつて腹一杯に食べるけれども糞をひるここの出来ない

ものは何か。

【註】(295) を見よ。

(297) 나는 새의 사기가 날지 못하는 것이 무엇이냐。

鳥の雛で飛べないものは何か。

【註】 蠅を鳥に譬へ、蛆を飛べない雛と見たのである。

(298) 뒤를 닦아 항아리에 고기 한 덩어리는 것이 무엇이냐。

ぬぢけた缸の中に肉が一塊あるものは何か。

(299) 비를 어진닥지 예고기 한 접 든 것이 무엇이냐。

진땀

蠟

구닥이

蛆

달팽이

蠅牛

달팽이

曲り曲つた殻に肉が一片入つてゐるものは何か。

(300) 압이 비스듬하고, 그 속에 살덩이 든 것이 무엇이야냐。

口が歪んでゐて、其の中に肉の塊が入つてゐるものは何か。

(301) 두루屏風에, 여다 지生鮮이 무엇이야냐。

四方八方に屏風を繞らし開閉が自由に出来る戸を持つてゐる

鮮魚시카나は何か。

(302) 四面絶壁에, 도래屏風압다지가 무엇이야냐。

四面絶壁の屏風で繞らし、前方に扉の附いてゐるものは何か。

九 魚 介 類

(303) 압도絶壁, 뒤도絶壁인데 팽팽돌아, 문난집이 무엇이야냐。

前も絶壁後も絶壁でぐるつゝ廻つて、門の附いた家は何か。

(304) 압도絶壁, 뒤도絶壁인데, 팽팽돌아, 문난집이 무엇이야냐。

蝸牛

달팽이

蝸牛

달팽이

蝸牛

달팽이

蝸牛

소라

榮螺

우렁이

前も絶壁後も絶壁でぐるつと廻つて、門の附いた家は何か。

(305) 물속에 든 버드나무잎이 무엇이나.

水の中の柳の葉は何か。

【註】魚の形が柳の葉に似てゐるから、かういふのである。

(306) 죽은 것을 살 잇다 하는 것이 무엇이나.

死んだものを生きたまといふものは何か。

【註】死んだ魚でも生鮮(生鮮)といふから、かういふのである。

(307) 목에 사리가 무엇이나.

목에 사리는何か。

【註】다리목(橋の下)의 목과 송사리(小魚)의 사리를 따와서, がつて、かういふ

のである。

(308) 뼈속에서 살 잇는 것이 무엇이나.

骨の中に肉のあるものは何か。

田螺

물고기

魚

生鮮

魚

다리목에 송사리

橋の下の小魚

계

뼈

【註】俗歌にも「外骨内肉」などいふことがある。

(309) 뼈에 떨어진 것이 무엇이냐。

骨に毛の生えたものは何か。

(310) 물건을 면서, 갈퀴질하는 것이 무엇이냐。

水を渡りながら手搔きをするものは何か。

(311) 귀와 눈과 입이 잇스나, 머리업는 것이 무엇이냐。

耳も目も口もあるけれども、頭のないものは何か。

(312) 큰 발은 둘, 작은 발은 여덟이 오ષ여안 에 살진 것이 무엇이냐。

大きな脚は二本、小さい脚は八本あつて、骨の中には肉のあるものは何か。

【註】(308)を見よ。

(313) 작은 발이 여덟개, 큰 발이 두개요, 하늘은 들으며, 땅은 희고, 거죽은 뼈
요, 속이 살잇는 것이 무엇이냐。

기 蟹 기 蟹 기 蟹 기 蟹 기

小さい脚が八本、大きい脚が二本あり、上は黄くて下は白く、外面は骨で、中に肉のあるものは何か。

【註】(308)を見よ。

(314) 거족은 백요, 속에 살이 잇는며, 앞발뒤에 두눈이 잇서서, 하늘을 가트치는 것이 무엇이나。

外は骨、中は肉で、前足の後に目が二つあつて、天を指してゐるものは何か。

【註】(308)を見よ。

(315) 눈은 하늘을 向하고, 배는 땅을 向하고, 큰발들과 적은발여 닮가진 것이 무엇이나。

目は天に、腹は地に向ひ、大きな脚二本と小さい脚八本持つてゐるものは何か。

(316) 아오는 兄에게 가도, 兄은 아오에게 가지 아니하는 것이 무엇이나。

蟹 蟹 蟹 蟹 蟹

弟は兄の所へ行くけれど、兄は弟の所へ行かないものは何か。

【註】小さい蟹は大きい蟹の穴へ入れるけれども、大きい蟹は小

さな蟹の穴へ入ることが出来ないから、かういふのである。

(317) 큰발이 들, 적은발이녀 몯이 고 썩다 귀지고, 보습안고 가는 것이 무엇

이냐。

大きな脚二本と小さい脚八本とあつて、骨を負ひすも相を抱いて行くものは何か。

(318) 代代로 째사들이 가 무엇이냐。

代々だいに僂むしのものは何か。

【註】代々悪事をなすものに對して「代代로 째사들이」といつて嘲

笑するのである。

(319) 단 단한 갑옷과 날카로운 발로, 一平生들을 떠 나지 않는 것이 무엇이
냐。

蟹

기

蟹

서우

蝦

가짜

丈夫な甲冑を鋭い足を持つてゐて、一生石を離れないものは何か。

(320) 뼈속에 고기 있는 것이 무엇이나。

骨の中に肉の入つてゐるものは何か。

(321) 허리에 눈박힌 것이 무엇이나。

腰に目の附いてゐるものは何か。

(322) 들고가도 땅에 떨어진 것이 무엇이나。

持つて行くけれども、地に落ちたものは何か。

【註】 蛸の朝鮮語낙지와落地(락지)と殆んど同音であるから、かう

いふのである。

一〇 玉石類

(323) 쉼에 뭉이 가 무엇이나。

蛸 가
かに

조개

蛤

낙지

蛸

낙지

蛸

개천에 돌뭉이

천지몽이是何か。

【註】 개천(川)의 천と돌몽이(石)의 몽이とを取つて、かういふのである。

(324) 일음은 보배요, 안팎쌈사등이 가무엇이냐。

名は寶で、腹も背も^{むし}偏^{へん}褻^{せつ}のものは何か。

一一 人 體 人體各部—人體關係事項

(325) 뒤웅박에 구멍 일곱 잇는 것이 무엇이냐。

瓢箪に穴が七つあるものは何か。

(326) 강은 강의라도, 불업는 강의 무엇이냐。

江ではあるけれども、水のない江は何か。

【註】 머강이(頭)의 강と江(江)의 강と同音であるからかういふので

ある。

(327) 마디업시 자라나는 것이 무엇이냐。

川の中の石

珊瑚

珊瑚

사람의 머리

人の頭

머강이

頭

毛髮

節なしに成長するものは何か。

(328) 건안에칼이무엇이냐。

건の中の칼は何か。

【註】

망건(網巾)の건と머리칼(毛髮)의칼との音をとつて、かういふのである。網巾は朝鮮人が冠を戴く時頭部を縛る鉢巻の如きもので、多くは馬尾で作る。

(329) 열놈이바자를들으는것이무엇이냐。

十人が籬を造るものは何か。

(330) 솔밭가온대,적은길이잇는것이무엇이냐。

松林の中に細い道があるものは何か。

(331) 열놈이올나가,結縛하고나려오는것이무엇이냐。

十人の者が上つて縛つて下りるのは何か。

【註】 毛髮を束ねて삼투を結ぶことである。삼투は朝鮮人の頭

毛髮

망건안에머리칼

網巾(망건)の中の毛髮

망건쓰는것

十本の指で網巾を冠
ること

총각머리금

總角の髮

삼투싸는것

삼투를結ぶこと

部に結ぶちよんまげのこことである。

(332)

소나무난 아래에 쓸쓸 아래에 적은 소나무, 그 아래에眼鏡, 그 아래에 산소, 산소 아래에 우물, 그 속에 차들이 무엇이냐。

松林の下に庭、庭の下に小さい松林、其の下に眼鏡、又其の下に墓、又其の下に井戸、其の中に白い石のあるものは何か。

【註】 頭髮を松林に、額を庭に、眉を小さい松林に、兩眼を眼鏡に、鼻を墓に、口を井戸に、齒を白い石に譬へたのである。

(333)

적은物件으로 쓰기에 큰 것이 무엇이냐。
小さいけれども、用途の大きいものは何か。

【註】 目はよく萬物を見るから、かういふのである。

(334)

좁아도 넓은 것이 무엇이냐。
狭くても広いものは何か。

【註】 目は小さくても廣く四方を見るから、かういふのである。

얼굴

額

目 寸

目 寸

(335) 갖가 읍고 먼 것이 무엇이냐。

近くて遠いものは何か。

【註】目は近くにあつて遠くまでも見られるから、かういふのである。

(336) 흰사발에 검은콩을 불녀둔 것이 무엇이냐。

白い沙鉢の中に、黒い大豆を漬けたものは何か。

(337) 天地萬物を 죄 덮는 것이 무엇이냐。

天地萬物を皆蔽ふものは何か。

【註】萬物を見る目を、臉で蔽ふてしまふから、かういふのである。

(338) 보아도 보이지 않는 것이 무엇이냐。

見ても見えないものは何か。

(339) 오른편귀와 갖흔 것이 무엇이냐。

右の耳に似てゐるものは何か。

세

目

승

眼

승설질

臉

승설

眉毛

원편귀

左の耳

(340) 넓으면 안나오고 좁으면 나오는데 무엇이 무엇이나.

廣ければ出ないし、狭ければ出るものは何か。

【註】 手鼻をかみ、又は紙布等にて鼻をかむとき、鼻孔が狭くなるから、かういふのである。

(341) 음막사리에, 白髮老人이 들락날락하는 것이 무엇이나.

小屋に白髮の老人が出たり入つたりするものは何か。

【註】 鼻孔を小屋に、白い汗汁を白髮の老人に譬へたのである。

(342) 두놈이 올라가서, 선하라 비뎡개치는 것이 무엇이나.

二人の者が上つて行つて、白髮の爺を投げ飛ばすのは何か。

【註】 兩手を二人の者に、液を白髮の爺に譬へたのである。

(343) 다섯놈이 술도둑하려 갔다가 두놈은 흠치고, 세놈을 뭇흠친 것이 무엇이나。

五人が蜜を盗みに行つて二人はうまく盗み、三人は盗めなかつ

코골

漢

코골

漢

코골은 것

手漢をかむこと

손으로 코골은 것

たものは何か。

【註】五人とは五指のことで、成功した二人とは親指と人指指の事である。

(344) 우물안에 흰돌이 무엇이나.

井戸の中の白い石は何か。

【註】口を井戸に齒を白い石に譬へたのである。

(345) 흰돌밭에 부채가 무엇이나.

白い石のある畑に扇は何か。

【註】口中の白い齒を畑の中の白い石に、舌を扇に譬へたのである。

(346) 흰담안에 붉은 단, 붉은 담안에 부채가 무엇이나.

白い垣の中に赤い垣、赤い垣の中に扇は何か。

【註】齒を白い垣に、口腔を赤い垣に、舌を扇に譬へたのである。

手泔をかむこと

齒 이

舌 혀

舌 혀

壁に瓶が二つ掛つてゐるものは何か。

(351) 외바람벽에,송이 두개 달닌 것이 무엇이나.

片壁に松茸が二つ掛つてゐるものは何か。

(352) 한 개 거는 못에, 병 두 개를 건 것이 무엇이나.

一つを掛ける釘に、瓶を二つ掛けてあるものは何か。

(353) 물을 아나 더어도, 때 때로 물 나오는 瓶들이 벽에 걸닌 것이 무엇이나.

水を容れないでも、時々水の出る瓶が二つ掛けてあるものは何

か。

(354) 먹으면 훌쩍하고, 안 먹으면 튕 튕한 것이 무엇이나.

飲めは空になり、飲まねば膨れてゐるものは何か。

(355) 매안에 득이 무엇이나.

매の中の得は何か。

【註】「袖」[소매]의 소매와「腕」[팔]의 手を取つて、かういふのである。

乳房

것

乳房

것

乳房

것

乳房

것

乳房

소매안에 팔 骨

袖の中の腕

(356) 쇠고개를 넘어서, 흰돌한개 잇는 것이 무엇이나.

峠三つを越えて、白い石が一つあるものは何か。

【註】 指の關節を峠に譬へたのである。

(357) 쇠고개 넘어, 조개를 업혀 노흔 것이 무엇이나.

三つの坂を越えたところに、貝を伏せてあるのは何か。

【註】 坂とは指の三つの關節をいつたのである。

(358) 몸한 곳에, 二百의 일음 가진 데가 어디냐.

體の一部に二百の名を持つてゐる處は何處か。

【註】 臑音(臑)は百の倍의 비음と殆んど同音であるから、가ういふ

のである。

(359) 차도를 논 것이 무엇이나.

命くても沸くものは何か。

【註】 腦の鳴るのを朝鮮語で 차다といひ、湯が沸くといふ語と

손
香

爪

손
香

爪

臑
音

臑

차
도

腦

同音であるから、かういふのである。

(360) 왼편볼기 짝갓흔것이 무엇이나。

左の方の腎たぶらに似たものは何か。

(361) 한에 짝이 무엇이나。

한に 짝は何か。

【註】「便所」の朝鮮語 위산의 한と「腎たぶら」の朝鮮語 볼기 짝의 한
を取つて、かういふのである。

(362) 왼편다리갓흔것이 무엇이나。

左の脚に似てゐるものは何か。

(363) 말을수록漸漸무거운것이 무엇이나。

瘠せるほぎ益々重いものは何か。

(364) 볼에그층갑나가느것이 무엇이나。

體の中で一番代價の高いものは何か。

바른편 볼기 짝

右の方の腎たぶら

위산에 볼기 짝

便所の中の腎たぶら

오른편 다리

右の脚

老人의 다리

老人の脚

오금

脚

【註】「膾」(ハク)は「烏金」(ウク)と殆んど同音であるから、かういふのである。

(365) 배가 등에 잇는 것이 무엇이나.

腹が背にあるものは何か。

【註】膾は脹れてゐるからこれを腹と見、且つそれが脛の後部にあるから、かういふのである。

(366) 배는 뒤로 두고, 등은 앞호로 둔 것이 무엇이나.

腹は後にあり、背は前にあるものは何か。

【註】膾を腹に、脛を背に譬へたのである。

(367) 단 지우에 막을 녀 노흔 것이 무엇이나.

단지의 위에 막을載せてあるものは何か。

【註】「膾」の朝鮮語장단지의 단지と「膝」の朝鮮語무릎파의 파とな

取つて、かういふのである。

장단지

膾
ハク

장단지 위 정압이

膾と脛

장단지우에 무릎파

膾の上の膝

(368) 용그리면 한용쿨이오, 버드면 한용쿨되 지못하는 것이 무엇이나냐。

曲ければ一擡になり、延せば一擡にならぬものは何か。

(369) 배를 지고, 뒤에 서 부러지는 것이 무엇이나냐。

腹を負うて後から歩くものは何か。

【註】 腓を腹さし、歩行する時脛を前にし腓を後方にするから、かういふのである。

(370) 世上에 책업시氣力센 것이 무엇이나냐。

世の中に骨が無くて力の強いものは何か。

(371) 바지안에 서 일어버리고, 찢지 못하는 것이 무엇이나냐。

바지의内で失つて、探すことの出来ないものは何か。

【註】 こゝは바지의内で放屁したことをいつたもので、바지는朝鮮人のほく、下を括ることの出来る太い股引のやうなものである。

무릎

膝

발

足

자지

男根

방귀

屁

(372) 손대지 안코, 살수 잇는 것이 무엇이나.

手も附けないで、包むことの出来るものは何か。

【註】「糞を放る」といふ朝鮮語는 다と「包む」といふ朝鮮語는 다と

同音であるから、かういふのである。

(373) 그리라 하야도, 그리지 못하는 것이 무엇이나.

盡に盡かうと思つても、盡けないものは何か。

(374) 눈스름들, 등다섯, 머리들이 무엇이나.

目が二十二、背が五つ、頭が二つは何か。

【註】「目」の朝鮮語는 세(二箇)、「手」の爪の根[ば]는 세(十箇)、「足」の爪

の根[ば]는 팔(八箇)といひ、何れも 세(三)といふから二十二箇の

目といひ「背」の朝鮮語는 일(一箇)、「手」の甲[ば]는 손(二箇)、「足」の甲

は 발(二箇)といひ、何れも 세(三)といふから五箇の背といひ、又

「頭」の朝鮮語는 머리(一箇)、「鼻梁」[ば]는 코마루(一箇)といふから、二

つの頭といつたのである。

등

糞

소대

音聲

사람물

人體

(375) 목이 다섯, 눈이 스물 둘, 등 여섯이 무엇이냐.

首が五つ、目が二十二、背が五つは何か。

【註】五つの首とは普通の首が一つ、손목(手首)が二つ、발목(足首)が二つ、合計五つ。二十二の目とに前註に説いたやうに、顔の目(눈)が二つ、其の他는善서(善書) 발善서(手及び足指の爪の根)가二十、即ち合計二十二。六つの背とは普通の背(등)가一つ、코등(鼻柱)가一つ、발등(足の甲)가二つ、손등(手の甲)가二つ、合計六つをいつたのである。猶ほ前註參照のこと。

(376) 나무독에 장담근 것이 무엇이냐.

木の瓮に醬油を醸造してあるものは何か。

【註】「屍體」の朝鮮語는 장의 장は「醬油」の朝鮮語 장と殆んど同音であるから、かういふのである。

(377)醬은醬이라도, 뭇먹는醬이 무엇이냐.

醬油ではあるけれども、食はれない醬油は何か。

사람

人

棺材 장

棺に屍體を入れてあるもの

송장

屍體

【註】

(376) を見よ。

一二 疾病不具

(378) 눈은 눈이라 도、보지 못하는 눈이 무엇이나。

目ではあるけれども、見ることの出来ない目は何か。

【註】

魚の目は手足などに生ずる肉刺まゆめで、其の朝鮮語되세의せと「目」の朝鮮語せと同音であるから、かういふのである。

(379) 잇흘을 보아도、달은 사람의 한 사람 분수밖에 못보는 것이 무엇이나。

二日間見ても、他人の一日分しか見られないものは何か。

(380) 눈셋에 발여섯잇는 것이 무엇이나。

目が三つ、足が六本あるものは何か。

(381) 발잇는 지렁이가 무엇이나。

脚のある蚯蚓は何か。

되세

魚の目

익구세

片目

익구세가 말한것

片目の者が馬に乗つてゐること

소경

盲人

【註】 蚯蚓には目が無いといふから、盲人をこれに譬へたのである。

一三 被服敷物 敷物—衣冠—履屐—容飾具—雜項

(382) 낮에 눈을 나가고, 밤에 눈 내려오는 것이 무엇이야냐。

晝は上つて行き、夜は下りて來るものは何か。

【註】 晝は臺の上に載せて置き、夜は被るために下すから、かういふのである。

(383) 밤에 눈 배를 타고, 낮에 눈 등을 타는 것이 무엇이야냐。

夜は腹に乗り、晝は背に乗るものは何か。

【註】 腹及び背は蒲團のそれを指していつたので、夜敷いて臥た蒲團を、晝は裏返して敷物にするからである。

(384) 밤에 눈 배 타고, 낮에 눈 등 타는 것이 무엇이야냐。

이 불

桴
敷蒲團

이 불
掛蒲團

夜は船に乗り、晝は籠に乗るものは何か。

【註】

舟(船)は「腹」の義にもなり、籠(籠)の音は籠(籠)に似てゐる。掛蒲

團は夜間腹に載せ、晝間籠襪などに載せて置くから、かういふのである。

(385) 머리와 배는 희고, 목은 붉고, 등은 검은 것이 무엇이야.

頭と腹は白く、頸は赤く、背は黒いものは何か。

【註】

朝鮮の掛蒲團の作り方が、かういふ風に出来てゐるからである。

(386) 네 귀에 손달린 것이 무엇이야.

四隅に紐の附いてゐるものは何か。

【註】

朝鮮の風呂敷は四隅に紐が附いてゐるから、かういふのである。

(387) 열 손이 올라가서, 그물치고,材木 세우는 것이 무엇이야.

掛蒲團

이불

掛蒲團

褥子

風呂敷

網巾쓰고 담을 잡는 것

十人の者が登つて行つて、綱を張つて、材木を立てるのは何か。

【註】

十人とは手の十本の指をいひ綱を張るとは綱巾を冠ること

材木を立てるとは綱巾の紐で尙早の根を縛つて立たせることをいふのである。綱巾は朝鮮人が冠を戴く時頭部を縛る鉢巻のやうなもの、尙早はちよんまげ髻のこゝである。

(388) 사람 열이 올라가서, 올라타리 만드느 것이 무엇이야냐。

十人の者が上つて行つて、籠を作るのは何か。

【註】

(387) を見よ。

(389) 루 안에 루가 무엇이야냐。

루の中に루が何か。

【註】

尙早の루と、髻の朝鮮語尙早の루とを取つてかういふので

ある。尙早は綱巾(망건)の上に冠る帽子のやうなもので、丁度其の中に尙早が入るやうになるから、かういふのである。

綱巾(망건)を冠つて、其の紐で尙早の根を縛ること

綱巾쓰느것

綱巾を冠ること

尙早안에尙早

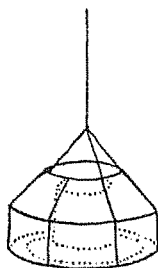
尙早の中に尙早

網巾及び付手（387）に就いては、を見よ。

(390) 쓰고도 단것이 무엇이야。

冠つても猶ほ吊してあるものは何か。

【註】 笠は冠り、笠入は天井に吊して置くから、かういふのである。



笠入に笠を
納めたる圖

(391) 열면 반달이요, 닫으면 둥근 달이 무엇이야。

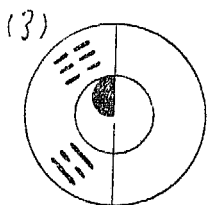
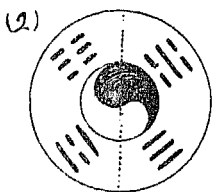
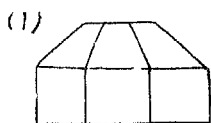
開けば半月、閉ぢれば満月のものは何か。

【註】 笠入には笠を下方から出し入れするが、其所は半開の扉になつてゐるから、かういふのである。(1)圖は笠入を横より見たところ、(2)はこれを下方より見たところ、(3)は其の扉

笠
入

笠
入

を半ば開いたとき、同じく下方より見た圖である。



(392) 簗卍所用이 업고, 안 簗卍所用 잇는 것이 무엇 이냐。

冠る時は無用になり、冠らない時は入用になるものは何か。

【註】(391)を見よ。「冠る」「用ひる」は同じく 傘 斗 といふから此謎は

惑はされ易い。

(393) 집 안에 집이 무엇 이냐。

家の中の家は何か。

【註】 斗 斗 (笠入) の字が「家」といふ語に當り、笠入が常に家の中にあるから、かういふのである。

斗 斗

笠 入

집 안에 斗 斗

家の中の 笠 入

(394) 갓을쓰고도, 吳笏다 하는 것이 무엇이나。

笠を冠つても、冠らないといふのは何か。

【註】 갓은 雨天の時、笠(갓)の上に冠る油紙製の一種の帽子である。 갓은 다(갓을冠る)といふ語と、갓은 다(갓을冠ら나)といふ語と音が似てゐるから、かういふのである。

(395) 길로 구비워며 가는 것이 무엇이나。

ブランコしながら道を行くものは何か。

【註】 笠の二本の紐が動くのをかう譬へたのである。

(396) 넓적 다리는 밧이 오, 若장이 는 들이 무엇이나。

腿は四つで脛が二つあるものは何か。

【註】 갓은 就ては(394)を見よ。 又其の紐は四本附いてゐるが、それが下の方で二本づゝ結び合されて、二本の紐となつて垂れてゐるから、かういふのである。

갓은 쓰다

갓을冠ること

갓은

笠の紐

갓은 다

갓은의紐

(497) 꼬리들 가진 양이 무엇이나.

尾を二つ持つてゐる羊は何か。

【註】

揮項(휘항)は朝鮮人が専ら冬期に冠る頭巾で、其の中央に一

筋の縫目があり、そこから左右二部分に分れてゐる。且つ

普通之を휘양といつて、其の양が羊(양)と同音であるから、か

ういふのである。

(398) 붉어도, 안이 붉은 것이 무엇이나.

赤くても、赤くないものは何か。

【註】

打消の語만 이は又「内側が」の意味にもなり、臙皿は外部が赤

くなくつて内側のみ赤いから、かういふのである。

(399) 등도 배 갖고, 배도 등 갖고, 머리도 꼬리 갖고, 꼬리도 머리 갖고, 왼편도

바른편 갖고, 바른편도 왼편 갖는 것이 무엇이나.

腹も背も同様、頭も尾も同様、左も右も同様のものは何か。

揮項

揮項

臙脂ユ吳

臙皿

참빛

兩側に齒のある楯

(400) 위는 아래 갖고, 아래는 위 갖고, 왼편은 오른편 갖고, 오른편은 왼편 갖고, 압혀 뒤 갖고, 뒤가 압혀 앞 것이 무엇이냐.

上も下も同様、左も右も同様、前も後も同様のものは何か。

(401) 등도 배 갖고, 배도 등 갖고, 머리도 꼬리 갖고, 꼬리도 머리 갖고, 앞 것이 무엇이냐.

엇이냐。

背も腹も同様、頭も尾も同様のものは何か。

(402) 前後左右上下의區別 없는 것이 무엇이냐。

前後左右上下の區別がないものは何か。

(403) 아버지는 출을 던 어 오고, 아들은 고기 잡는 것이 무엇이냐。

父は鳶を刈つて來、子は魚を捕るものは何か。

【註】櫛で髪を梳つて虱を取ることを、かういふのである。

(404) 한물건이며, 사람마다 각각 보이는 것이 무엇이냐。

一つのものであつて、見る人に從つて色々に見えるものは何か。

참빛

兩側に齒のある櫛

참빛

兩側に齒のある櫛

참빛

兩側に齒のある櫛

참빛

兩側に齒のある櫛

거울

鏡

(405) 사람이南便을向하야안즈면北便을向하야안고,칭을내면달아치

칭을내고,웃으면달아치웃는것이무엇이냐。

人が南に向つて坐れば北に向つて坐り、怒れば共に怒り、笑へば共に笑ふものは何か。

(406) 벼락에경이무엇이냐。

벼락이경이何か。

【註】「壁」(담벼락)의 벼락은「鏡」(석경)의 경とを取つて、かういふのである。

(407) 열놈은잡아단기고,다섯놈은들어가는것이무엇이냐。

十人の者は引張り、五人の者は入るものは何か。

【註】兩手の十本の指を十人の者に片足の五本の指を五人の者に譬へたのである。

(408) 집을지면가고,집을지리아니하면아니가는것이무엇이냐。

거울

鏡

담벼락에석경

壁に鏡

보선신는것

足袋を穿くこと

선

荷を背負へば行き、荷を背負はねば行かないものは何か。

【註】 足を荷物と見たのである。

(409) 문은 냇인데, 열놈이 結縛하는 것이 무엇이나.

門は四つだけれぎも、十人が縛るのは何か。

【註】 朝鮮の草鞋は後半に四箇所の隙間があるから、それを門と

いつたのである。又十人とは、人

が兩手の指を使つてそれを穿く

ことをいつたのである。

朝鮮
草鞋
の
圖



(410) 壁도 다섯 門도 다섯 잇는 것이 무엇이나.

壁も五つ、門も五つあるものは何か。

【註】 (409) を見よ。門は鼻先の 코(鼻)をも合せると五つある。又門

を形成する五箇所の紐類を壁といつたのである。

(411) 門은 다섯인데, 이것을 넘어 들어가는 것이 무엇이나.

靴

집석이

草鞋

집석이

草鞋

집석이 신는 것

門は五つあるのに、之を越えて入るものは何か。

【註】

(410)を見よ。

(412) 어 더 맛고, ㅁ 비틀 나 는 것이 무엇 이냐。

打たれて絞られるものは何か。

【註】

朝鮮人の洗濯は始め棒で叩き、それからよく絞つて乾かすから、かういふのである。

(413) 문은 문 이 나, 出入 하지 못 하 는 문 이 무엇 이냐。

門ではあるけれども、出入の出来ない門は何か。

【註】

「門」(문)と「絞」(틀)と同音であるから、かういふのである。

一四 飲食物

(414) 먹 어 도, 배 불 으 지 아 나 한 것이 무엇 이냐。

食べても腹の膨れないものは何か。

草鞋を穿くこと

쌀배

洗濯物

미 단 배 잇 는 문

織物の絞

담배

煙草

【註】朝鮮語では食ふことも喫煙することも皆 먹다(食ふ)といふ

から、かういふのである。

(415) 붉은골안에서 煙氣나는 것이 무엇이나.

赤い谷から煙の出るのは何か。

(416) 물속에 출렁골이 무엇이나.

水の中の葛の蔓は何か。

(417) 물속에 잇는 출렁골이 무엇이나.

水の中の葛の束は何か。

(418) 나무문과 쇠문을 지나서, 더운물과冷水에沐浴하는 것이 무엇이나.

木の門と鐵の門を通り抜け、冷水と湯に入浴するものは何か。

【註】拵方の順序によつて、かういふのである。

(419) 나무문으로 들어가서, 鐵門을 지나서, 더운물에沐浴하고, 다시 찬물

에沐浴하고 나서, 갈대밭헤들어 누운 것이 무엇이나.

담배먹는것

煙草を吸ふこと

물속에 국수

水の中の蕎麥

물속에 국수

水の中の蕎麥

국수

蕎麥

국수

木の門から入つて、鐵の門を抜けて、湯に體を洗ひ、又水に體を洗つて、蘆の畑に臥てゐるものは何か。

【註】 拵方の順序によつてかういふので、蘆の畑に臥てゐるとは

刈世(多くは萩にて編む)といふ扁平な入れ物に擴げて水分を去るから、かういふのである。

(426) 나 무 門 으 로 들 어 가 서, 쇠 門 을 나 와 서, 더 운 물 에 沐 浴 하 는 것 이 무 엇 이 냐.

木の門から入つて、鐵の門を出で、湯に體を洗ふものは何か。

【註】 拵方の順序によつて、かういふのである。(419)の註を見よ。

(421) 더 운 물 에 沐 浴 하 고 나 서, 다 시 찬 물 에 沐 浴 하 고, 갈 데 밧 해 누 운 것 이 무 엇 이 냐.

湯に體を洗ひ、又水に體を洗つて、蘆の畑に臥てゐるものは何か。

【註】 (419)を見よ。

蕎麥

수수

蕎麥

수수

蕎麥

(422) 黒衣를 벗고 돌림에 빗켜쳤다 가 열門을 지나고 나무門을 지나고, 石

門을 나와서, 더운 물에沐浴하고, 또 찬 물에沐浴하고 갈대 밧헤 누어
잇는 것이 무엇이냐。

黒い衣服を脱いで、石の隙に偏つてゐたものが、毛の門を通り、又
木の門を通り抜けて、温浴し又冷水浴をして、蘆の畑に臥てゐる
ものは何か。

【註】拵方の順序によつて、かういふのである。(419)を見よ。

(423) 열어도 찬 것이 무엇이냐。

沸いても冷いものは何か。

【註】「茶」は朝鮮語で차といつて、冷い(차다)の차と同音であるか

ら、かういふのである。

(424) 더워도 차다 하는 것이 무엇이냐。

熱くても冷いといふのは何か。

寺
수

蕎
麥

茶
차

茶
차

【註】(423)を見よ。

(425) 곰은곰이나,달아나지못하는곰이무엇이냐。

熊ではあるけれども、走れない熊は何か。

【註】「鹽」(소금)の音と「熊」(곰)の音と同音であるから、かういふのである。

(426) 풀어쳐도, 矢속에잇는것이무엇이냐。

溶けても釜の中にあるものは何か。

(427) 물속에차들이무엇이냐。

水の中に白い石のあるものは何か。

【註】水に浸してある豆腐を白い石に譬へたのである。

(428) 한자가웃콩이무슨콩이냐。

一尺五寸の大豆は何か。

【註】大豆を醬油に漬けたものを콩자반といふが、之を分解する

소금

鹽

팥

赤飯の小豆

豆腐

豆腐

콩자반

大豆の醬油漬

と、(豆)자(一尺)반(半即ち一尺の半分)となるから、かういふの

である。

(429) 쥬추는百이라도,기동은열개밭게업는것이무엇이냐。

礎は百あつても、柱は十本しかないものは何か。

【註】朝鮮の乾柿は普通一本の串に柿を十箇づつ貫き、それを十

本寄せて一貼といひ、一貼で柿が百箇になる。今柿百箇を

礎に、串十本を柱に譬へたのである。

(430) 枯木에꽃이 스를피고, 열매가百열닌것이무엇이냐。

枯れた木に花が二十咲き、實が百なつたものは何か。

【註】串柿は柿が取れないやうに、貫いた木の兩端を裂いてある

が、其の裂かれて廣がつた部分を花が咲いたものと見たの

である。猶ほ

(429)

を見よ。

(431) 말은나무한가지에, 두꽃은꽃이피고, 中間에 열매 열개 열닌 것이 무

乾柿一貼

串柿百箇

乾柿一貼

串柿百箇

엇이냐。

一本の枯枝の兩端には花が咲き、中間に十箇の實がなつたのは何か。

【註】

(429) 及び (430) を見よ。

(432) 兩머리에 늘은 싹 핏기 동 열 개 에, 柱礎百箇 쥔 것이 무엇이냐。

兩端に黄色の花が咲いてゐる柱十本に、礎を百貫いてゐるものは何か。

【註】

(429) 及び (430) を見よ。

(433) 十里湯이 무엇이냐。

十里湯は何か。

【註】

가오리는加五里の字音と同音であるが、加五里は五里に五里を加へたものであると見て、かういふのである。

(434) 天下에 第一 싹흔 것이 무엇이냐。

乾柿

串柿

乾柿一貼

串柿百箇

가오리탕

鱒の乾物の汁

은것이
고초가
무너

此の世の中で一番悲しいこゝまは何か。

【註】日に唐辛の粉を入れると涙が澤山出るから、かういふので

ある。

(435) 조고마한하날에서,눈이퍼붓는것이무엇이냐。

小さい天から雪の盛んに降るものは何か。

【註】備から落ちる餅の粉を雪に譬へたのである。

(436) 보고도,먹지못하는것이무엇이냐。

見てゐて食へないものは何か。

(437) 떡은떡이라,도,못먹는떡이무엇이냐。

餅でも食へない餅は何か。

(438) 새층에第一큰새가무엇이냐。

鳥の中で一番大きいものは何か。

【註】「食事」(식사)の새と、「鳥」(새)の새と同音であるから、かういふの

目に唐辛の粉を
入れたこと

餌가루

餅の粉

그림의 떡

畫に書いた餅

그림의 떡

畫に書いた餅

새새

食事

である。食物はどんなに澤山あつても食へば無くなるから、食ふことほど大きいことは無いといふのである。

(439) 새 증에 무서운 새가 무엇이야냐。

鳥の中で恐しい鳥は何か。

【註】

(438) を見よ。

(440) 먹지 않으면 볼 수 업는 것이 무엇이야냐。

食はなければ見るここの出来ないものは何か。

【註】

味ふこさを朝鮮語で 맛 본 다(味を見る)といふから、かういふのである。

一五 住 居 家屋—建具—廳舍—巢穴

(441) 버개는 하나 잇는대, 여러놈이 배고 자는 것이 무엇이야냐。

枕は一つであるのに大勢の者が一緒に臥てるものは何か。

먹서

食事

음식 맛

飲食物の味

대들석

棟の椽を並べた

【註】 棟むなぎを枕まくらに椽たるきを大勢の者に譬へたのである。

(442) 한 벼개에千萬人이 누운 것이 무엇이나.

一つの枕に澤山の人が臥てるのは何か。

【註】 (441)を見よ。

(443) 열놈스름놈이 한 벼개뿐 것이 무엇이나.

十人二十人の者が一つの枕に臥てるものは何か。

【註】 (441)を見よ。

(444) 어머니 하나인데, 子息은千이나萬되는 것이 무엇이나.

母は一人であるけれども、子は千も萬もあるものは何か。

【註】 (441)を見よ。

(445) 뼈는 삭어도, 살은 안 삭는 것이 무엇이나.

骨は腐つても、肉の腐らないものは何か。

【註】 壁かべの下地したぢを骨ほねに、壁土かべつちを肉にくと見たのである。

대들썩이 쇠가래
안진것
棟むなぎ의
椽たるき를
並ならべ

섯가래
棟むなぎ의
椽たるき를
並ならべ

대들썩이 쇠가래
棟むなぎ의
椽たるき를
並ならべ

壁 壁

(446) 畜을 수륙 살찌는 것이 무엇이나。

年よる程膚が肥えるものは何か。

【註】年毎に壁土を塗るからである。

(447) 쇠아니쇠고갓쓴 것이 무엇이나。

帶を締めないで、笠を冠つてゐるものは何か。

【註】屋根を笠に譬へたのである。

(448) 검은소가 이산커산의 숲을 다 갈아 먹는 것이 무엇이나。

黒い牛が、此の山彼の山の松を食ひ盡すものは何か。

【註】温突の焚口が煤けて黒くなつてゐるのを、黒い牛に譬へた

のである。温突は朝鮮の家屋にある採暖の設備で、下方の

一隅から火を焚き、床下から室内を暖めることになつてゐ

る。

(449) 검은 입으로, 달 잘 먹는 것이 무엇이나。

壁

壁

집
붕

屋根

아궁지

温突の焚口

아궁지

黒い口でよく秣を食ふものは何か。

【註】

(448)を見よ。

(450) 임으로 草木을 먹고, 궁둥이로 雲霧를 내는 것이 무엇이나.

口からは草木を食ひ、尻からは雲霧を出すものは何か。

【註】

煙突から出る煙を雲霧に譬へたのである。猶ほ(448)を見よ。

(451) 南山北山草木을 다 먹고, 量이 차지 아니하는 것이 무엇이나。

南北の山の草を食ひ盡してからも、猶ほ滿腹にならぬものは何か。

【註】

(448)を見よ。

(452) 이산키山 풀을 다 먹고, 배가 곱하치, 口가 열려 있는 것이 무엇이나。

方々の山の草を食ひ盡しても、猶ほ腹が減つて口を開けてゐるものは何か。

【註】

(448)を見よ。

溫突の焚口

溫突

溫突

아궁지

溫突の焚口

아궁지

溫突の焚口

(453) 골은골이며,郡守업는골이무엇이냐。

郡ではあるけれども、郡守のない郡は何か。

【註】 구들골의골と「郡」の朝鮮語골と同音であるから、かういふのである。

(454) 압해는붉은소가가고,뒤에는검은소가가는것이무엇이냐。

前には赤い牛が通り、後には黒い牛が通るものは何か。

【註】 温突の前部の焚口には火が炎え、後部の煙突からは煙が出るから、かういふのである。

(455) 하날밧헤,第一무서운집이무엇이냐。

此の世の中で一番恐しい家は何か。

【註】 酷い目に遇げされることを凭싼다といつて、糞を放るといふことになるが、便所へ入れば糞を放るから、便所を恐しい家に譬へたのである。

구들골

温突の底の溝

아궁지예불태는
것
焚口に火を焚く
こと

뒤싼

便所

(456) 안고나가고, 지고들어가는 것이 무엇이나。
抱いて出て、負うて入るものは何か。

【註】門を出る時は扉を自分の方に引いて出、門内に入る時は扉を後ろにしめて入るから、かういふのである。

(457) 나갈새나들어올새나, 지는 것이 무엇이나。
出る時も入る時も負ふものは何か。

【註】扉を後ろにして出で、扉を後ろにして入るから、かういふのである。

(458) 絶壁에 부채 단 것이 무엇이나。
絶壁に扇を懸けたものは何か。

【註】二枚の扉を扇に譬へたのである。

(459) 밤낮업시, 샅기 낮는 것이 무엇이나。
夜さなく晝さなく子を産むものは何か。

夜さなく晝さなく子を産むものは何か。

門 門

門 門

門 門

門 門

【註】門から人の出たり入つたりするのを子を産むことに譬へ

たのである。

(460) 한 날 개로 사람 잡아먹는 것이 무엇이나。

翼一つで人を呑んでしまふものは何か。

【註】一方の扉を開閉して人の出入することを、かういふのであ

る。

(461) 두 날개를 가지고, 사람을 하루에도 몇 번씩 삼켰다. 吐하얏다 하는 것

이 무엇이나。

二枚の翼を以て、人を一日に何遍も、呑んだり吐いたりするもの

は何か。

【註】二つの扉を開閉して人の出入することを、かういふのであ

る。

(462) 온 사흘 가리에 밧사흘 가리가 무엇이나。

門 門

門

門

문
짝

田三日耕に畑三日耕は何か。

【註】朝鮮の障子の目の正方形のところを田長方形のところを

畑と見たのである。

(463) 책만코, 살적은 것이 무엇이나。

骨が多くて肉の少いものは何か。

【註】사리썩은とは萩の枝木の枝黍幹などで編んだ板戸以外の

扉をいふのである、こゝでは細い枝や幹を骨に譬へたので

ある。

(464) 닫으면 네모, 열면 여덟모 되는 것이 무엇이나。

閉ざれば四角になり、開ければ八角になるものは何か。

【註】開いた場合には扉が二枚に離れるから、其の各の四隅

を算へて八角といひ、閉じた場合には二枚の扉が合つて一

枚の扉のやうになり、隅が四つになるから、かういふのであ

障子

사리썩은

柴扉

門

門の扉

【註】

아래호와 ㅅ호의 호は敍豆で造つた寒天に似た食物の号と同音で、こゝは此の廉價なものを持つて市場に出る意である。又호(市場)は ㅅ호(天隙)の호と同音で、猶ほ市場に出ることも天井を見ることが同じく 호다といふから、かういふのである。아래호와 ㅅ호とは溫突の床の一部の名稱である。

(468)

목은 목이라도。먹지 못하느 목이 무었이냐。

号ではあるけれども、食はれない号は何か。

【註】

아래호の号と寒天に類した食物の号と同音であるから、かういふのである。아래호は溫突室の床の中で焚口に近い所の稱である。

(469)

쇠쇠고, 갖아니 쓴 것이 무었이냐。

帶を締めて笠を冠らないものは何か。

【註】

술타리는木の細枝などで編んだ籠のこもで、これを支へる

아래호

아래호

술타리

籠

ため横に竹や木などを互してある。それを帶に簷へたのである。

(470) 여러사람이 한網巾을 쓴 것이 무엇이나。

多くの人が一つの網巾を冠つてゐるものは何か。

【註】 簷の内側に並べた木を人と見、簷を網巾と見たのである。

(471) 날개가 넷이오, 다리가 넷인데, 날지도 못하고, 걸지도 못하는 것이 무엇이나。

翼が四つ脚が四本あるけれども、飛ぶことも歩くことも出来な
いものは何か。

【註】 此の見張小屋は瓜畑中に設けられ、四本の柱を高く立て、其の上
の人に人の坐るべき席を設け、屋根は粗末な藁などで葺き、
屋根の端毎に日覆を附けることもある。こゝでは日覆を
裂に、柱を脚に譬へたのである。

(472) 밤낮업시, 눈을 딱 부릅뜨는 것이 무엇이나。

바자

籬

참외막

瓜畑の見張小屋

구수구멍

夜畫の區別なく目を離つてゐるものは何か。

【註】 目とは飼槽の中に牛馬の手綱を道す爲め、五六箇の穴をあ

けてあるから、かういふのである。

(473) 하날로 門난집이 무엇이야。

天に向けて門のある家は何か。

【註】 朝鮮の豚小屋は周圍に柵を繞らし、上部を全部又は半分程

開けて置くから、これを門と見たのである。

(474) 걱구로 매여 달닌집이, 千門萬戶가 무엇이야。

倒に懸つてゐる家に、澤山の門戶が設けてあるものは何か。

(475) 아래로 向한집이, 우호로 向한집이 무엇이야。

下向きの家に仰向きの家は何か。

(476) 다섯 늬이 들어가서, 열늬을 울켜내는 것이 무엇이야。

五つの奴が入つて、十の奴を攫み出すのは何か。

飼槽の穴

도야 지우리

豚小屋

밭의 집

蜂の巢

제비 집

人家の燕の巢

구녕속에 잇는게를 잡아내느것
穴の中の蟹を手で取る事

(477) 들속에 잇는 吐手が 무엇이나。

水の中にある吐手は何か。

【註】蟹を捕るために手を其の穴に入れるのを、吐手に手を通すことに譬へたのである。吐手は朝鮮人の腕に嵌めるもので、洋服のカフスに似たものである。普通絹布綿布等で作るが、夏季は馬毛や籐で作つたものをも用ひる。

一六 器

物

家具—裁縫文房具—舟車
輻輳—農工漁具—雜用具

(478) 말은 말에, 집을 만히 실은 것이 무엇이나。

瘠馬に荷物を澤山負はせてあるものは何か。

(479) 낮에는 집을 부리고, 밤에는 실은 것이 무엇이나。

晝は荷を下し、夜は荷を積むものは何か。

【註】晝は衣服を着て外出し、夜は衣服を脱いで掛けるから、かう

いふのである。

계길

蟹の入つてゐる穴

餵대

衣拵

餵대

衣拵

(480) 밤이 나뉘어나, 잔뜩 질머진 것이 무엇이나.

夜も盡も荷を一杯背負うてゐるものは何か。

(481) 숙에 거리가 무엇이나.

숙에 거리는何か。

【註】 방숙(部屋の中)의 숙과 의거리(衣桁)의 거리를取つて、かういふのである。

(482) 天下에 귀하나 가진 것이 무엇이나.

此の世の中に耳を一つ持つてゐるものは何か。

【註】 針の孔を朝鮮語では귀といつて耳のこゝになるから、かういふのである。

(483) 배압이 실을 불고, 無數한 고개를 넘는 것이 무엇이나.

蛇が糸をくはへて、無數の峠を越えるものは何か。

【註】 針で物を縫つて行く有様をかういつたのである。

顛머

衣桁

방숙에 의거리

部屋の中の衣桁

바늘

針

바늘

針

(484) 안진고리가 무엇이나.

坐つてゐる環が何か。

【註】 바느질고리(針箱)의 고리와 고리(環)의 고리와 同音であるから、

かういふのである。

(485) 喪主는 열이라도、頭巾을 쓴 하나가 무엇이나。

喪主は十人あるのに、頭巾を冠つてゐるものは一人しかないも

のは何か。

【註】 指十本を喪主十人に、골구(布にて作り指先を覆ふもの)。針

仕事に用ふ)を嵌めた一本の指を頭巾を冠つたものに譬へ

たのである。喪主は喪に服する人で、死人の 妻・子・子の嫁等

が之に當る。頭巾は喪主の冠る冠物である。

(486) 검은소가 흰밭가는 것이 무엇이나。

黒い牛が白い畑を耕すものは何か。

【註】 鉄を黒い牛に、布片きれを白い畑に譬へたのである。

바느질고리

針箱

바느질하는것

針仕事をすること

가리

鉄

(487) 열면四角이오, 닳으면三角이 되는 것이 무엇이나.

開けば四角こなり、閉ぢれば三角こなるものは何か。

(488) 대긋해 털난 것이 무엇이나.

竹の先に毛の生えたものは何か。

(489) 걱구로 서서 단기는 것이 무엇이나.

倒になつて歩くものは何か。

(490) 높은 마아가白沙地에 검은 등누고 돌아 단기는 것이 무엇이나.

黄色い馬の子が白い沙原に、黒い糞を放れ廻るものは何か。

【註】筆の穂を馬の子に、紙を白い沙原に、墨汁を黒い糞に譬へた

のである。朝鮮では筆の穂又は筆の心に黄毛(황모)とて いたも

の毛を入れるから、黄色の馬といつたのである。

(491) 검은 개가白沙汀으로 단기면 서, 검은 등누는 것이 무엇이나.

黒い犬が白い沙原を歩き廻りながら、黒い糞を放れるものは何

犬

筆 犬

筆 犬

筆 犬

缺 犬

가
키

か。

【註】筆の穂を黒い犬に、紙を白い沙原に、墨汁を黒い糞に譬へたのである。

(492) 토끼가 대판을 쓰고, 天下의 말을 능히 하며, 天下의 일을 능히 통하며,
天下의業을 능히 成就하는 것이 무엇이나。

兎が竹の冠を冠つて、能く天下のことを言ひ、能く天下の意に通じ、能く天下の業を成就するものは何か。

【註】筆は能く天下の事を記録するから、かういふのである。猶

ほ (490)
(491) を見よ。

(493) 떠먹지 못하는 것이 무엇이나。

汲んで置いて飲まれないものは何か。

【註】紙を「抄く」といふことも「汲む」といふことも、朝鮮語では

다스어다스어하니까、かういふのである。

筆

兎

筆

丕
司

紙

(494) 한번 먹고, 입 붓치는 것이 무엇이나.

一廻食つて口を塞ぐものは何か。

(495) 배짖으로 먹고, 입으로 토하는 것이 무엇이나.

膈から食つて口から吐くものは何か。

(496) 발은 발이라 도, 것이 못하는 발이 무엇이나.

足は足でも歩けぬ足は何か。

(497) 밥을 먹지 안코, 날마다 웃는 것이 무엇이나.

飯も食はずに毎日笑つてゐるものは何か。

(498) 횡길에 집을 지면서 가는 것이 무엇이나.

道に家を建てながら行くものは何か。

【註】 轎を朝鮮家屋に擬し、それが昇がれながら動き行くから、か

ういふのである。

(499) 길로 집을 가지고 가는 것이 무엇이나.

가	轎	가	時	시	机	처	硯	狀	封
마		마	計	계	の	사	滴	袋	套
					足	발	入		

家を持つて道を歩くものは何か。

(500) 죽은 나무가 거러가는 것이 무엇이나.

死んだ木が歩いて行くものは何か。

(501) 배는 배라도, 못 먹는 배가 무엇이나.

梨ではあるけれども、食へない梨は何か。

【註】「梨」も「船」も朝鮮語では同じく 배 であるから、かういふのである。

(502) 竹將軍이 三四人을 다리고 太子를 치니、太子가 甲冑를 벗고 逃亡하는 것이 무엇이나。

竹將軍が三四人を引連れて太子を打つと、太子は甲冑を棄てて逃げ去るものは何か。

【註】連枷からぎをの竹の柄を竹將軍に、柄の尖端に附けた三四本の小さい竹を三四人の人に、豆まめを太子太の字の訓を尋といひ、豆と

轎

배

船

타는 배

乘る船

도릿게

連枷からぎを

いふ意になるから、豆を太子といつたのである)に、豆の殻を

甲冑に譬へたのである。

(503) 먼山보고, 손짓하는 것이 무엇이나。

遠方の山を見て、手招きするものは何か。

【註】連枷を以て穀類を打つことを、かういふのである。

(504) 먼山을 向하야, 무채질하는 것이 무엇이나。

遠方の山に向つて煽ぐものは何か。

【註】唐箕で穀物を簸ることを、かういふのである。

(505) 둥근하날에 서, 눈오는 것이 무엇이나。

圓い天から雪の降るものは何か。

【註】篩で粉をふるひ落すことを、かういふのである。

(506) 호박은 호박이라도, 먹지 못하는 호박이 무엇이나。

南瓜は南瓜でも、食へない南瓜は何か。

도릿개

連枷

기

唐箕

채질하는것

篩をふるふこと

밤호박

曰

【註】 방호박は瓠子(白)の意で、咸鏡北道の方言である。

(507) 나무는 나무인데 땅이 치흔 들흔 들하느 것이 무엇이나。

木ではあるけれども、兩端がぶらりくするものは何か。

【註】 가래は鋤の一種で、柄の脚部に二箇の穴を穿ち、二本の紐を附けてあつて、三人で之を使用する。即ち二人は各一本づつの紐を握り、一人は柄の端を握り、協力して前後に動かし、耕すのである。

(508) 땅이 촌살고, 가운데는 죽은 것이 무엇이나。

兩端は生きて、中部は死んでゐるものは何か。

【註】 장기(乘)は前方には牛がゐ、後方には人が居つて耕して行くのである。兩端の人と牛を生物さひひ、장기를死物と見たのである。

(509) 밥으로 먹고, 밥으로 내여 주는 것이 무엇이나。

脇から食つて、脇から出すものは何か。

가래질하느것

鋤を使つて畑を耕す

장기질하느것

耒を使つて畑を耕す

작토

脇おしきり切

【註】一方から藁を入れ、一方に切り落すのをかういふのである。

(510) 열사람이 넷코, 다섯사람이 목을 베는 것이 무엇이나.

十人を入れ、五人で首を切るものは何か。

【註】牛馬の飼料となる藁を切るのに、朝鮮では二人がかりでや

る。即ち一人が両手で藁を入れれば、他の一人が片足で庖丁を踏んで之を刻むから、かういふのである。

(511) 몸은 하나인데, 머리 들 잇는 것이 무엇이나.

胴は一つで、頭が二つあるものは何か。

【註】二つの取手を頭と見たのである。

(512) 기둥 넷에, 주춧돌 혼들 잇는 것이 무엇이나.

柱は四つ、礎三十二箇あるものは何か。

【註】馬の四本脚を柱に、蹄鐵に打つた鋏を礎に譬へたのである。

(513) 배로 먹어, 동으로 나오는데, 무엇이 무엇이나.

작도
押切

마소의 곡통
牛馬の飼槽

말편다

馬の蹄鐵

대패

腹から食つて背から出すものは何か。

(514) 아래로 먹어, 위로 내뱉는 것이 무엇이나.

下から食つて、上から出すものは何か。

(515) 밑으로 먹어, 위로 토하는 것이 무엇이나.

底から食つて、上から吐き出すものは何か。

(516) 등구녕으로 먹어, 입으로 토하는 것이 무엇이나.

肛門から食つて、口から吐き出すものは何か。

(517) 코는 코나, 내압새똥맛는 코가 무엇이나.

鼻ではあるけれど、香を嗅がれない鼻は何か。

【註】 ㄱ물코(網の目)의 코와 코(鼻)의 코와 同音であるから、かういふのである。

(518)朝夕으로 씻어 수하는 것이 무엇이나。

朝夕顔を洗ふものは何か。

膳	소반	網の目	구물코	鉤	대피	鉤	대피	鉤	대피	鉤
---	----	-----	-----	---	----	---	----	---	----	---

(519) 올으면 걱구려지고, 나리면 케대로 선 것이 무엇이나.

上らば倒になり、下れば正しく立つものは何か。

【註】 膳は棚などにのせる時は、必ず倒に置くから、かういふので

ある。

(520) 들어갈 때는 짐이 무겁고, 나갈 때는 가벼운 것이 무엇이나.

入る時は荷物が重くて出る時は軽いものは何か。

【註】 膳を進める時には食物を載せ、之を撤する時には食物が無

くなるから、かういふのである。

(521) 아침 커떡, 네 발을 가지고, 왔다가 다하는 것이 무엇이나.

朝夕四本の足で、行つたり來たりするものは何か。

(522) 아침 커떡, 놀만 놀니고, 밤도 못어터먹는 것이 무엇이나.

朝夕水を流してばかりゐて、飯も食べられないものは何か。

【註】 布巾は朝夕膳を拭ふために水に洗はれるから、かういふの

밥상

膳

밥상

膳

밥상

膳

혜주

布巾

である。

(523) 아침 커넥, 목욕하는 것이 무엇이야.

朝夕沐浴するものは何か。

(524) 朝夕으로沐浴식혀, 쓰는 것이 무엇이야.

朝夕入浴させて使ふものは何か。

(525) 착이안나는 씨가 무엇이야.

芽の生えない種子は何か。

【註】 접시(小皿)의 씨와 씨(種子)의 씨와 略同音であるから、かういふのである。

(526) 四面네발이 무엇이야.

四方四足が何か。

【註】 沙鉢即ち사발の外は「四」の音と同じく、발は足の訓と同じであるから、かういふのである。사발は食器で、内地の茶碗

음식
그릇

食器

그릇

器

접시

小皿

沙鉢

沙鉢

のやうなものである。

(527) 동성은兄의 집에 들어가도,兄은동성의집에 못들어가는것이 무엇

이냐。

沙鉢斗鍾子

弟は兄の家に入ることが出来るけれども、兄は弟の家に入るこ
その出来ないものは何か。

沙鉢と鍾子

【註】

沙鉢は大きくて鍾子の中に入れないけれども、鍾子は小さ
くて沙鉢の中へ入れるから、かういふのである。沙鉢は

(526)

を見よ。鍾子は醬油唐辛味噌等を入れる器である。

(528) 아침저녁으로,두발을동동글으는것이무엇이냐。

저가탁

朝夕兩足をこん／＼と踏み鳴すものは何か。

箸

【註】

朝夕の食事の時、箸の先を揃へるため、膳に當てる際に音が
するから、かういふのである。

(529) 아침저녁,두발을동동글으고,밤못어더먹는것이무엇이냐。

저가탁

朝夕兩足をこん／＼と踏み鳴すばかりで、飯の食べられないも

のは何か。

【註】(528)を見よ。

(530) 四面으로 뒤들녀 단기면서, 어더 먹지 못하는 것이 무엇이나.

四面八方に追ひ遣られながらも何一つ食物を貰へないものは何か。

【註】箸はあつちこつちへ動かされながら、何も貰へないから、かういふのである。

(531) 들켜는 짐이 무겁고, 나릴켜는 가벼운 것이 무엇이나.

上げる時は荷物が重くて、下ける時は軽いものは何か。

【註】匙で飯を食ふことをいふのである。

(532) 을나갈켜는 짐실고, 나려올켜는 빈몸이 무엇이나.

上る時は荷物を載せ、下る時は空になるものは何か。

【註】(531)を見よ。

箸

것가락

箸

숫가락

匙

숫가락

匙

(533) 들어갈싸는 짐을 실고, 나올싸는 짐을 부리는 것이 무엇이나。

入る時は荷物を背負ひ、出て來る時は荷物を下すものは何か。

【註】

(531)を見よ。

(534) 밥은 퍼주고, 못어 더먹는 것이 무엇이나。

飯は移してやつても、自分は食べられないものは何か。

【註】此れは釜の中から飯を移すに使はれるばかりで、何の所得

もないから、かういふのである。

(535) 世上에 第一 단 것이 무엇이나。

世の中で一番甘いものは何か。

【註】朝鮮語살어미를分解すると살(蜜)と어미(母)になり、蜜の母と

いふ意味になるから、かういふのである。

(536) 五六月에 찬바람나는 것이 무엇이나。

五六月に冷い風の起るものは何か。

승가락

匙

주걱

飯杓子

살어미

紐類で括つたもの

부채

扇

(537) 조희와 대가配合하여, 나은아들을淸風이라 하는 것이 무엇이나냐。

紙と竹が結婚して生れた子を淸風といふものは何か。

【註】 紙與竹而相婚, 生其子則淸風の文句があつて, よく扇子など

に之を書く。

(538) 썩리는식골잇고, 가지는서울잇는데, 바람이잇스면고요하고, 바람

이업스면動하는 것이 무엇이나냐。

根は田舎にあり, 枝は京城にあつて, 風があれば靜かで, 風がなければ動くものは何か。

【註】 扇の竹は田舎で切り取るから, 根は其まゝ田舎に残り, 枝は

京城で多く用ひられ, 風があつて涼しければ之を使用する

要なく, 風が無くて暑ければ之を使用するから, かういふの

である。

(539) 머리와 꼬리는 식요, 몸은 대가 무엇이나냐。

頭と尾は金で體は竹のものは何か。

부채

扇

부채

扇

담배대

煙管

(540) 한편에 서 불 켜고, 한편에 서 먹는 것이 무엇이나.

一方では火を焚き、一方では食ふものは何か。

【註】 朝鮮語では食物を食ふことも、煙草を吸ふことも 먹는다と

いふからである。

(541) 부엌에 서 작만 하야 가지고, 굴뚝에 서 먹는 것이 무엇이나.

臺所で拵へて、煙突のところで食ふものは何か。

【註】

(540) を見よ。

(542) 아궁지에 서 불 켜고, 굴뚝에 서 먹는 것이 무엇이나.

焚口で火を焚いて、煙突のところで食ふものは何か。

【註】

(540) を見よ。

(543) 앞산에 서는 불이 야 불이 야 하고, 뒷산에 서는 煙氣가 쇠약 쇠약 나

것이 무엇이나.

前の山では火事だくくしいひ、後の山では煙がもやくく出る

담뱃대

煙管

담뱃대

煙管

담뱃대

煙管

담뱃대

ものは何か。

【註】 雁首を前の山に、吸口を後の山に譬へたのである。

(544) 부엌에 서담아가지고, 풀목에 가서 먹는 것이 무엇이야냐.

臺所で盛つて、横町のところで食ふものは何か。

【註】 (540)を見よ。

(545) 외나무다리에 서 걸닌 것이 무엇이야냐.

丸木橋に釜を据ゑ付けてあるものは何か。

(546) 鐵橋를 건너고, 木橋를 건너서, 또 鐵橋에 서 건 것이 무엇이야냐.

鐵橋を渡り、木の橋を渡り、それから鐵橋に釜を据ゑたものは何か。

【註】 吸口と雁首を鐵橋に、雁首の皿を釜に譬へたのである。

(547) 쇠가마에 머구들, 쇠숟가락 있는 집이 무엇이야냐.

鐵の釜に、竹の溫突、鐵の煙突ある家は何か。

煙管

담뱃대

煙管

담뱃대

煙管

담뱃대

煙管

담뱃대

煙管

【註】雁首を鐵の釜に竹を温突に、吸口を煙突に譬へたのである。

(548) 맛추면 두구멍, 뻐면 여섯구멍이 무엇이냐。

嵌めれば穴が二つ、取り離せば穴が六つになるものは何か。

(549) 길것다, 눈싸지는 것이 무엇이냐。

路を歩いてゐる中に、眼が抜けるものは何か。

【註】道を歩きながら、吸殻を叩き落すことを、かういふのである。

(550) 들어올싸에는 갖치오나, 갈싸에는 셋으로 난우어나가는 것이 무엇

이냐。

入つて来る時には一緒に入り、出て往く時は三つに分れて出るものは何か。

【註】煙草を吸ふ時、煙が一つの吸口から口の中へ入り、出る時は

口と鼻の兩孔から出るから、かういふのである。

(551) 열놈이 만들고, 다섯놈이 버리는 것이 무엇이냐。

담뱃대

煙管

담뱃대통

煙管の皿

담뱃연기

煙草の煙

깃땃개

十人の奴が拵へて、五人の奴が捨てるものは何か。

【註】 兩手で藁束を造り、片手で尻を拭つて、之を捨てるから、かういふのである。

(552) 다 첫치되느 조희가 무엇이냐。

五寸の紙は何か。

【註】 天井に貼る紙を朝鮮語で 반자지といひ、之を分解すれば 반(半)자(尺)자(紙)即ち五寸の紙といふことになるから、かういふのである。

(553) 배에 만 털난 것이 무엇이야。

腹にばかり毛の生えてゐるものは何か。

(554) 白土山에 서, 靑龍黃龍이 울으나 리는 것이 무엇이야。

白い山に靑龍、黃龍が上下するものは何か。

【註】 布片を白い山に、内部にある炭から昇り立つ火氣を靑龍、黃

尻拭の藁束

반자지

天井に貼る紙

귀알

刷毛

다림이

火鬘斗

龍に譬へたのである。

(555) 검은암 닭이 붉은알을 품고, 白土山을 울으락나리락하는 것이 무엇

이냐。

黒い牝鶏が赤い卵を抱いて、白い山を上下するものは何か。

【註】 布片ふれを白い山に、火の入る部分を黒い牝鶏に、火を赤い卵に

譬へたのである。

(556) 白土山에, 검은나비가 붉은나비를 품고, 울으락나리락하는 것이 무

엇이냐。

白い山に、黒い蝶が赤い蝶を抱いて、上つたり下つたりするもの

は何か。

【註】 布片を白い山に、火の入る部分を黒い蝶に、火を赤い蝶に譬

へたのである。

(557) 客이 들어가서, 主人을 내쫓는 것이 무엇 이냐。

다림이

火戾斗

다림이 잘 아는 것

火戾斗

벌써

客が入つて、主人を逐ひ出すものは何か。

【註】錠を開ける時に、錠の中の金具を錠で推し上げるから、かういふのである。

(558) 손이主人櫃에 들어가는 것이 무엇이나.

客が主人の箱に入るものは何か。

【註】(557)を見よ。

(559) 張書房집에 呂書房 들어가는 것이 무엇이나.

張君の家に呂君が入るものは何か。

【註】잠을 쇠(錠)의 語 頭音의 잠을 姓의 張(장)音に似せ, 열쇠(錠)의 語 頭音의 열을 姓의 呂(려)音に似せて, かういふのである。

(560) 呂書房이 張書房 肛門을 열너서 五腸六腑나 오든 것이 무엇이나.

呂君が張君の肛門をさせば、五腸六腑が皆出るものは何か。

【註】(559)を見よ。

錠

열쇠

錠

열쇠로 잠을 쇠며는 것

錠で錠を開くこと

열쇠로 잠을 쇠며는 것

錠で錠を開けること

(561) 밧구멍을 찌시면, 주둥이로腸子나오는 것이 무엇이나.

肛門から推し上げれば、口から臟の出るものは何か。

(562) 밧솔치밀면, 혀나오는 것이 무엇이나.

下から推し上げれば、舌の出て來るものは何か。

(563) 밧솔로 썰으면, 뼈빠지는 것이 무엇이나.

横から突くミ、骨の出るものは何か。

(564) 입으로 먹고, 입으로 똥누는 것이 무엇이나.

口から食つて、口から糞をするものは何か。

(565) 壁에 첫똥이 달녀 잇는 것이 무엇이나.

壁に乳房のかゝつてゐるものは何か。

【註】油の壘は多く壁にかけるから、かういふのである

(566) 한兩남춧한 것이 무엇이나.

一兩ミ少し多いものは何か。

잠울쇠

錠

잠울쇠

錠

잠울쇠

錠

병

壘

기름병

油の壘

양곤

眞鍮製の器具

【註】 양키の양は一兩の兩(양)の音に似、キは一分の分(キ)と同音で

あるから、かういふのである。

(567) 口から食つて、口から吐き出すものは何か。

口から食つて、口から吐き出すものは何か。

(568) 食つても食はなくとも、腹の膨れてゐるものは何か。

食つても食はなくとも、腹の膨れてゐるものは何か。

(569) 出て行く時は黙つて、入つて來る時は歌ふものは何か。

出て行く時は黙つて、入つて來る時は歌ふものは何か。

【註】 水を汲んで歸る時は、水汲用の瓢箪を水瓶の中に伏せて浮

かせるから、周圍に當つて音がする、それを歌ふことに譬へたのである。

(570) 나갈 때는 배가 풀코 들어올 때는 배불은 것이 무엇이나。

出る時は腹がすぎ、入る時は腹が一杯になるものは何か。

주머니

囊

독

瓮

물동이의

水瓶

물동이의

水瓶

(571) 나갈 때는 소고소리요, 들어올 때는 북소리나 는 것이 무엇 이냐。
出て行く時は小鼓の音がし、入つて来る時は大鼓の音がするも

のは何か。

【註】

(569) を見よ。出て行く時に出る音は、歸る時に出る音よりも

小さいから、小鼓といつたのである。

(572) 나갈 적에는 활쥔하고, 들어올 적에는 배불은 것이 무엇 이냐。
出る時は空で、入つて来る時は腹の膨れるものは何か。

(573) 먹으면 서고, 兵 먹으면 안는 것이 무엇 이냐。
食へば立ち、食はねば坐るものは何か。

(574) 입으로 먹어, 입으로 吐하는 것이 무엇 이냐。
口から食へて、口から吐くものは何か。

(575) 우흐로 먹어, 아래로 吐하고, 아래로 먹어, 우흐로 吐하는 것이 무엇 이
냐。

물통의

水瓶

물통

水桶

쌀자루

米袋

자루

袋

錢幣

上から食つて下から吐き、下から食つて上から吐くものは何か。

【註】錢帯は底のない錢入れで、内地の胴巻に似たものである。

(576) 먹으면 홀췌고, 안 먹으면 볼룩한 것이 무엇이야.

食へば空になり、食はねば膨れるものは何か。

(577) 나갈 때는 홀췌고, 들어올 때는 볼룩한 것이 무엇이야.

出る時は空で、入る時は膨れてゐるものは何か。

(578) 뽕어섯, 이 나 는 것이 무엇이야.

年寄つて齒の出るものは何か。

【註】行李は多く柳で造られるので、古くなると縁などが切れて、

其の端が露はれるから、かういふのである。

(579) 뽕어갈 수록, 이 나 는 것이 무엇이야.

年取るほど齒の生えるものは何か。

【註】

(578) を見よ。

錢入れ

쌀너흔자루

米を入れた袋

쌀너흔자루

米を入れた袋

고리쌍

行李

광부리

筐

(580) 칠잇슬싸는이가엿다가늑어외이나는것이무엇이냐。

若いときは齒がなく、年を取つてから齒の生えるものは何か。

【註】(578)を見よ。

(581) 임은하나요, 肛門이千잇는것이무엇이냐。

口は一つ、肛門は千あるものは何か。

【註】보구니は菘で作り、底が深く、野菜魚類等を買入れる時に用

ひる。多くの間隙を千の肛門といつたのである。

(582) 임은하나라도, 구녕만흔것이무엇이냐。

口は一つあるが、孔の多いものは何か。

【註】저롱は菘で作り、脊に負ふものである。

(583) 눈은만코, 아가리는하나잇는것이무엇이냐。

目は多く、口は一つあるものは何か。

【註】(582)を見よ。

광주리

筐

보구니

小筐

저롱

籠

광주리, 저롱

筐, 籠

(584) 안진고리가 무엇이나。

坐つてゐる環は何か。

【註】

동고리는 고리쇠(578)を見よの小さなものである。そして동

고리(行李)의 고리와 고리(環)의 고리와同音であるから、かうい

ふのである。

(585) 늘자지안코, 눈뜨고잇는 것이 무엇이나。

何時も眠らないで、眼を開けてゐるものは何か。

【註】

籠の口を眼と見たのである。

(586) 가벼울고도, 百五十斤 되는 것이 무엇이나。

輕くても、百五十斤もあるものは何か。

【註】

채반は蓆で廣く平らに編んだもので、物を乾かすに用ひる。百斤を朝鮮語で剩半を半といひ、채반は百五十斤のことになるから、かういふのである。

동고리

小行李

채롱

籠

채반

蓆の編物

(587) 버드나무뿔은길에, 소나무감긴것이무엇이냐。

柳の延びた道に松の木の纏はれてゐるものは何か。

【註】行李(578)を見よを編むときは、其の縁に松の木を巻いて丈夫にするから、かういふのである。

(588) 朴生員이病이 나니, 宋生員이鍼을 주고, 盧生員이 灸치는 것이 무엇이냐。

朴が病氣に罹つたので、宋が鍼で刺し、盧が癒すものは何か。

【註】「瓢箪」は朝鮮で박아지といつて、その語頭音박が朴(박)の姓と同音、錐は송곳といつて、その語頭音송が宋(송)の姓と同音、然紐はふといつて、盧(로, 實際の發音がㄴ)の姓と同音であるから、かういつたのである。

(589) 기동하나에, 집하나 잇는 것이 무엇이냐。

柱一本に家一軒は何か。

(590) 한기동에 여덟간집이 무엇이냐。

버드나무뿔

柳行李

해진박아지불송곳은
로솔코노로동미박지
것

엮れた瓢箪を錐で孔
をあけ、然紐で綴ぎ
合せること

雨傘

雨傘

박아지우산

一本の柱に八間かんの家は何か。

【註】骨と骨との間を一間かんの家と見たのである。間は建坪を數

へる單位であつて、普通六尺四方である。

(591) 귀는 넷이오, 눈은 천잇는 것이 무엇이나.

耳が四つ、目が千あるものは何か。

【註】簾の四隅を耳に、編目の隙を千の目と見たのである。

(592) 눈은 눈이라 드, 보지 못하느 눈이 무엇이나.

目は目だけれぎも、見えない目は何か。

(593) 귀는 넷인데, 눈은 만흔 것이 무엇이나.

耳は四つであるが、目の多いものは何か。

【註】筵の四隅を耳に、編目を目と見たのである。

(594) 盧書房이 王書房을 結縛하느 것이 무엇이나.

盧さんが王さんを縛るものは何か。

蝙蝠傘

갈대밭

蘆の簾

자리승

アンペラ類の目

돛자리

筵

자리치느것

蓆を編むこと

【註】 席は撚紐で莞草を編んで拵へるのであるが、「紐」の朝鮮語

는 盧(盧)實際の發音と同音、「莞草」の朝鮮語왕갈의 왕は王(왕)と同音であるからかういふのである。

(595) 罪업시 목맨 것이 무엇이나。

罪なしに首を括られてゐるものは何か。

(596) 을 나가 면을 나간 만큼 나려가고, 나려가면 나려간 만큼 을 나가 는 것

이 무엇이나。

上れば上つただけ下り、下れば下つただけ上るものは何か。

(597) 나 갈 때 는 훑을 하고, 들 어 올 때 는 불듯 한 것이 무엇이나。

出て行く時は空^{かも}で、入つて来る時は膨れるものは何か。

【註】 歸る時には水を入れて来るから、かういふのである。

(598) 갈 때 는 속이 비고, 들 어 올 때 는 속이 찬 것이 무엇이나。

行く時は腹がすいて、歸つて来る時は腹が一杯になるものは何

드레박

釣瓶

우물에 달린 드레박

滑車に吊してある釣瓶

드레박

釣瓶

드레박

か。

【註】
(597) を見よ。

(599) 空手로 갔다가, 집지고 오는 것이 무엇이나。

只で行つて, 歸る時荷物を背負うて來るものは何か。

【註】
(597) を見よ。

(600) 등우레 배삼달닌 것이 무엇이나。

背の上に臍のついてゐるものは何か。

【註】 朝鮮の釜の蓋に附いてゐる把手を, 臍に譬へたのである。

(601) 土沾우에 검은 담, 검은 담 안에 흰 담이 무엇이나。

土塀の上に黒い塀, 黒い塀の内に白い塀は何か。

【註】 釜の据臺を土塀に, 釜を黒い塀に, 飯を白い塀に譬へたのである。

(602) 손바닥으로 움키면 한 음큼이 오, 두팔로 썬 안으면 한 아름되는 것이

釣瓶

드레박

釣瓶

숫속기

釜の蓋

숫

釜

무엇이냐。

掌で攫めば一杯になり、兩腕で抱けで一杯になるものは何か。

【註】 釜の蓋の把手と縁とを、かういつたのである。

(603) 아침커떡불기얌그슬니고사는것이무엇이냐。

朝夕尻を焼かれて暮すものは何か。

(604) 궁둥이그슬니고,밤어떡먹지못하는것이무엇이냐。

尻を焼かれるばかりで、飯が食べられないものは何か。

(605) 아침커떡에,배를데이고,먹지못하는것이무엇이냐。

朝夕腹を焦しながらも、一向食へないものは何か。

(606) 아버의것은아들이썩도,아들의것은아버가쓰지못하는것이무엇

이냐。

父の笠は子に冠れるけれども、子の笠は父に冠れないものは何か。

ㅅ떡개

釜の蓋

ㅅ

釜

ㅅ

釜

가마떡개

釜の蓋

ㅅ떡개

釜の蓋

【註】 大きな釜の蓋を父の笠に、小さい釜の蓋を子の笠に譬へたのである。

(607) 兄의 笠은 아오가 써도, 아오의 笠은 兄이 冇쓰는 것이 무엇이냐。

兄の笠は弟に冠れても、弟の笠は兄に冠れないものは何か。

【註】 (606) を見よ。

(608) 검은 밥이 흰 알을 품고 안 켜는 것이 무엇이냐。

黒い牝雞が白い卵を抱いてゐるものは何か。

【註】 釜を牝雞に、飯粒を卵に譬へたのである。

(609) 귀여 된 발 밷 잇는 것이 무엇이냐。

耳が八つ、足が四つあるものは何か。

【註】 其の形狀に就いて、かういふのである。

(610) 귀여 된 발 밷 잇 하나 가진 것이 무엇이냐。

耳が八つ、足が四つ、口が一つあるものは何か。

숯 뜯 개

釜 の 蓋

밥 지 은 솥

飯 を た 이 た 釜

귀 주

米 櫛

귀 주

米 櫛

【註】 形状によつてかういふのである。

(611) 발이 네, 귀가 여덟, 입이 半잇는 것이 무엇이냐。

足が四つ、耳が八つ、口が半分あるものは何か。

【註】 其の形状から、かういふのである。口が半分あるといふのは、半分開けるやうになつてゐるからである。

(612) 몸은 하나요, 입은 半이요, 귀는 여덟, 발은 넷잇는 것이 무엇이냐。

體は一つ、口は半分、耳は八つ、足は四つあるものは何か。

【註】 其の形状からかういふのである。

(613) 귀여덟가진 것이 무엇이냐。

耳八つ持つてゐるものは何か。

【註】 其の形状から、かういふのである。

(614) 귀여덟잇고, 입 하나잇는 것이 무엇이냐。

耳が八つ、口が一つあるものは何か。

櫃 櫃

櫃 櫃

米 升

米 升

【註】(611)を見よ。

(615) 귀여웁가진龍이무엇이냐。

耳八つ持つてゐる龍は何か。

【註】衣籠(의籠)の籠(籠)と龍(룡)實際の發音(음)と殆んど同音である

から、かういふのである。

(616)朝夕으로粉밭으는것이무엇이냐。

朝夕白粉をつけるものは何か。

【註】米を量る時に粉が榊につくから、かういふのである。

(617)朝夕으로粉밭으고,나오는것이무엇이냐。

朝夕白粉を附けて出るものは何か。

【註】(616)を見よ。

(618)입이하나요,肛門이뻗잇는것이무엇이냐。

口が一つ肛門が四つあるものは何か。

衣籠

衣服入箱

쌀뿔박

榊

뒤

榊

등시루

蒸籠